

# 聖徒の道 12 1984





本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です

## 末日聖徒イエス・キリスト教会

### 大管長会

スペンサー・W・キンボール  
マリオン・G・ロムニー  
ゴードン・B・ヒンクレー

### 十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン  
ハワード・W・ハンター  
トーマス・S・モンソン  
ポイド・K・パッカー  
マービン・J・アシュトン  
ブルース・R・マッコンキー  
L・トム・ペリー  
デビッド・B・ヘイト  
ジェームズ・E・ファウスト  
ニール・A・マックスウェル  
ラッセル・M・ネルソン  
ダリン・H・オークス

### 顧問

M・ラッセル・バラード  
ローレン・C・ダン  
レックス・D・ビネガー  
チャールズ・A・ディディエ  
ジョージ・P・リー

### 編集長

M・ラッセル・バラード

### 国際機関誌

編集主幹：  
ラリー・A・ヒラー  
編集副主幹：  
デビッド・ミッチェル  
子供の頁編集：  
ボニー・ソーンダーズ  
レイアウト・デザイン：  
マイケル・カワサキ

## も く じ

クリスマスメッセージ……………大管長会……………	1
「主、その民をシオンと呼びたまえり」……………スペンサー・W・キンボール……………	2
クリスマスの使い……………ライラ・M・セロバー……………	10
クリスマスの贈り物……………マーク・E・ピーターセン……………	12
「敵を愛せよ」の教え……………レナ・N・エバース……………	15
ジョセフ・スミスの靈性……………ディーン・C・ジェシー……………	18
ジョセフの赤レンガの店……………ポール・トーマス・スミス……………	28
あらゆる良き賜……………ロバート・D・ヘイルズ……………	34
プレゼント……………レイ・ゴールドラップ……………	42
おさなごイエス……………「聖典からの物語」より……………	48
せいしよにでてくるどうぶつ……………	52
ローカルページ／索引……………	54

表紙：オランダ人画家ヘラルト・ファン・ホントホルスト（1590—1656）  
画「キリストの降誕」

1984年12月号 聖徒の道 第28巻第12号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 明文社

定 価 年間予約／海外子約2,200円(送料共)

半年子約1,100円(送料共)

1部180円、大会号350円

International Magazine PBMA0529JA Printed in Tokyo, Japan.

©1984 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号／東京0-41512）にてご送金いただければ、直接郵送致します。注：お届け先の変更がありましたら、早急に資材管理部配送センターにご連絡下さい。●「聖徒の道」についての問い合わせは……〒194 東京都町田市小川1704-1／末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター／☎0427-96-2820

## クリスマスメッセージ

— の聖なる季節に、私たちは世界中の  
— 国々にいる皆さんに、愛とあいさつの言葉をお伝えしたいと思います。私たちは、およそ2000年前にベツレヘムで生まれたみどり児が、全世界の救い主であられるキリストであったことを宣言します。過去、現在、未来にわたり、すべての人々の望みはキリストに託されています。またキリストの中に、世の多くのものから離れた心の平安を見いだすことができるのです。

ベツレヘムに始まりエルサレムに終わった数々の出来事は、歴史の焦点と言えるものです。私たちが記念するこの降誕は、ゲツセマネとカルバリで起こった恐ろしい出来事の序奏となるものでした。そして馬屋に始まり空の墓で終わった聖なるみ業を思い起こすなら、クリスマスは深い意味をもって私たちの心に迫ってきます。

神の独り子というすばらしい贈り物に対する感謝の念を、喜びをもって表現することこそ、クリスマスの祝い方としてふさわしいものです。この季節に歌われる讃歌やキャロルは、羊飼いたちが聞いた天使の讚美歌を今なお同じように響かせています。

私たちは古代の予言者ニーファイと共に、「キリストのことを喜」(II ニーファイ25:26) ぶと宣言するものです。古代の義人は、信仰と希望のうちにキリストが降臨される

のを待ち望んでいました。私たちは謙虚さと感謝の念をもってキリストのこの世における聖なるみ業を思い起こし、また、信仰と希望のうちに、キリストの再降臨のときを待ち望んでいます。

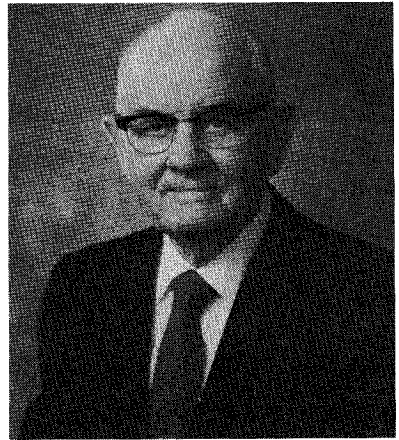
私たちは、キリストの中に見いだすことのできる平和を、すべての人々が尋ね求めるよう祈っています。

また、商業主義とお祭り騒ぎに目をくらまされることなく、私たちがその誕生を祝っているお方に心を向けるように願っています。

クリスマスは数多くの国で祝われていますが、この祝日に伴う伝統や習慣も実に様々です。私たちは、隣人への愛の奉仕によって、救い主を礼拝することを伝統とするように奨励してきました。救い主が示された親切や寛容、正しい行ないが、世界中の数多くの人々の生活の中に表われるように祈るものです。なぜなら、ベツレヘムの空に輝いた星が、博士たちを救い主のもとへ導いたように、キリストの教えに従順な人の生活は、まだ贖い主を知らない現代の多くの人々を導く光となるものだからです。

このクリスマスの季節をはじめ、私たちはいつも、すべての人々がイエス・キリストを通して得られる希望と平安を見いだすことができるように、心から祈っています。

# 「主、その民を シオンと 呼びたまえり」



大管長

スペンサー・W・キンボール

この重要な教えは、1977年10月に行なわれた総大会で述べられたものです。大管長の意向により、個人や家族の学習のために再掲載するものです。

**福**祉計画は非常に重要な意味を持っています。したがって、私はこの業の基をなす真理をここで再確認し、それらを今日の私たちにどのように応用すべきかをお話したいと思います。この業に関して私たちが霊的な面で受け継いでいるものをさらに強め、それを土台にして実行の歩みを速めることができるよう願っています。

主は時の初めより、隣り人を自分自身のように愛せよと民に求めておられます。エノクの時代の人々についての記録を読んでみたいと思います。「主はその土地を祝したまいたれば、民は山の上と高き所に祝福を受け誠に栄えたり。

主、その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人

もなかりき。」(モーセ7：17-18)

この真理を教えた指導者たち、この真理を学んだ人々については、モルモン経の随所にその記録が見られます。慈愛に満ちたベンジャミン王は次のように語っています。

「ねがわくは、私がお前たちに話をしたように日々自分の罪の赦しを保ち、罪無しに神の前を歩くことができるように、お前たちが一人一人みなその財産の多い少ないに応じてそれを貧しい人々に分け与えることを望む。それはたとえ、腹のすいている者に食物を与え、はだかである者に着物を着せ、病んでいる者を見舞い、各々の必要に従って肉体についても霊についても救助を施すことである。」(モーサヤ4：26)

ニーファイ第四書には、利己心を捨てたため、4代にわたって完全な義のうちに栄



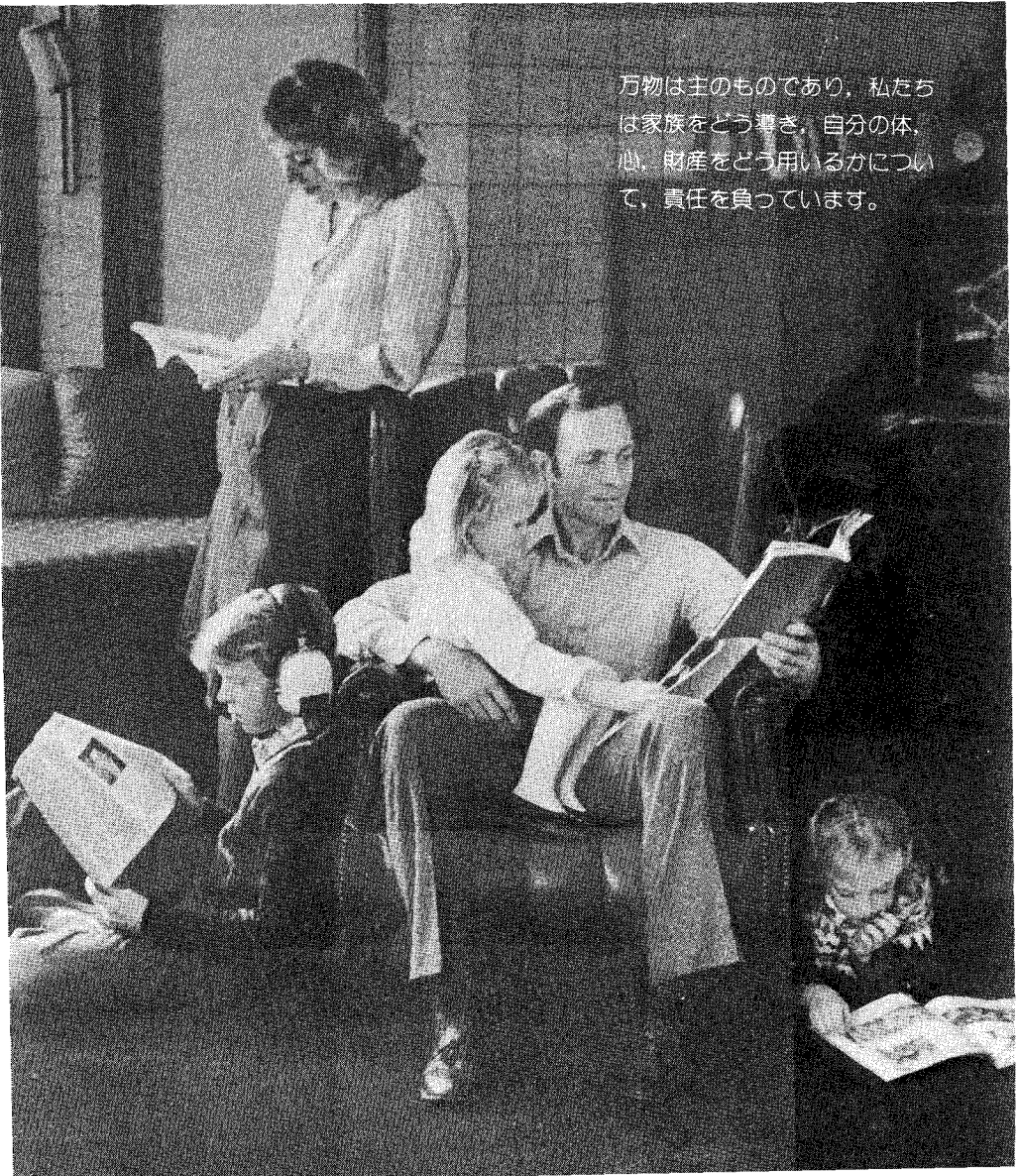
えたニーファイ人の記録があります。理想のシオンを実現した彼らの有り様を心に描くとき、私たちは感動を覚えます。

「一同は一切の所有物を共有したので富

んでいる者と貧しい者との区別もなく、自由な者と奴隷との区別もなく、誰もかれも自由となり天の賜<sup>たまもの</sup>を受けられた。

また、嫉妬<sup>しつと</sup>、争闘、暴動、みだらな行い、

万物は主のものであり、私たちは家族をどう養い、自分の体、心、財産をどう用いるかについて、責任を負っています。



## 「主、その民をシオンと呼びたまえり」

虚言、人殺し、および何らみだりがわしい行いがなかったから、まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった。」(IVニーフアイ 3, 16)

この最後の神権時代の、現在から約4世代前に、主は現代のシオンを築くことに關して次のように述べておられます。

「ことごとくの者、兄弟を己が身の如くに思い、わが前に徳と聖きを履み行うべし。

われ重ねて汝らに告ぐ、汝ら皆己が身の如くに兄弟を思うべし。

汝らの中誰か十二人の息子を有つに、その一人にのみ偏よることをせざればその子たちよく父に仕う。然るに、すなわち一人に向いて汝礼服を着けて此所に座せよと言ひ、また他に向いて汝ぼろを着て彼所に居れと言ひ、しかも息子たちに向いて、見よ、われ公平なりと言うことを得んや。

見よ、こは一つの比喩を以て汝らに語るころなれど、正にわれ在るが如く真なり。われ汝らに向いて言わん、汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば、汝らはわがものにあらず。」(教義と聖約38:24-27)

ジョセフ・F・スミス大管長は、福祉活動の再設を予告する言葉を1900年に語っています。

「あなたがたは、物質的なものと靈的なものが溶け合っていることを、いつも心に留めなければならない。この二つは分離したものではない。私たちが地上にいる限り、片方なしで、もう一方のこを行なうことはできない。

末日聖徒は、靈的な救いだけでなく、この世の救いをもたらす福音を信じている。

……私たちはまず善良、忠実、また正直で勤勉な人にならなければ、本当に良い、信仰深いキリスト教徒にはなれないと信じている。それで私たちは、勤勉、儉約、謹厳を説く福音を宣べ伝えている。」(「福音の教義」第1巻, p.252)

そして、1936年に大管長会は、現在実施されている福祉計画という形でこれらの原則を宣言しています。この宣言は、理想のシオンを築くためのより完全な機会を当時の人々に提供するものでした。

大管長会は次のように述べています。「私たちの第一の目的は、可能な限り、いまわしい怠惰や施しのもたらす悪弊を除去し、独立心、勤勉、儉約、自尊心を再び私たちの間に確立する体制を築くことである。教会の目的は、人々の自立を助けることにある。勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければならない。」(「大会報告」1936年10月)

この大管長会の意向に誤りはありません。この業は、物質的な性格を帯びているように見えるかも知れませんが、真髄は靈的なものであることははっきりとしています。次のJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長の言葉にあるように、これは人々を第一に考え、神からの靈感により設けられたプログラムです。「福祉計画の長期目標は、与える者と受ける者双方の教会員の人格を築き、豊かな精神という人の目につかない結実をもたらすことである。これは結局、この教会の使命と目的であり、また存在する理由でもある。」(J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長、ステーキ部会長特別集会、1936年10月2日)

私たちは世界各地を訪れ、人々に会うたびに、私たちの民が物質的な必要を抱えていることを強く感じます。けれども、彼らに援助の手を差し伸べたいと思うときに、私たちは、「肉を制してはじめて高度の霊性が得られる」という大切な教訓を彼らに学ばせなければならないことを、感じるの

す。人々に自分の必要を自分で満たすよう促してこそ、その人の人格を築くことができるのです。

与える者が自分の欲望を抑え、自分の望みに照らして他人の必要を正しくとらえるときに、福音は彼らの生活の中で生きたものとなります。大いなる愛の律法に従って



会員一人一人が貧しい人、乏しい人のために惜しみなく断食献金を納めるべきです。

## 「主、その民をシオンと呼びたまえり」

生活するときに、人は物質的な救いだけでなく、霊的な清めをも受けるのです。

そして、受ける者も、感謝の気持ちをもって受けるとき、真のシオンにおいて人は物質的にも霊的にも救いにあずかることができるということを知って、喜びを覚えます。こうして彼らは自立しようという気持ちに駆られ、ほかの人々と分かち合えるようになります。

すばらしい計画です。皆様は、シオンに美しい衣を着せるこの福音に感動を覚えないでしょうか。こうして考えてみると、福祉活動はプログラムではなく、福音の本質であることがわかります。まさに、福音の実践です。キリスト教徒の生活を貫く最も気高い原則なのです。

こうした結論に至る過程を具体化し、この業の根底をなす原則を明確にするため、私は、基本的な真理であると思う事柄についてお話したいと思います。

第1にあげられるのが、愛です。隣人に対する私たちの愛、さらに主に対する私たちの愛は、私たちがお互いに、あるいは貧しい人や悩んでいる人に対してどのように行動するかによって測られます。

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:34-35; モロナイ7:44-48; ルカ10:25-37; 14:12-14参照)

第2は奉仕です。奉仕とは、自己を低く

し、援助の必要な人を助け、「貧しい者に持物を分け与え、飢えた者に食物を与えて、……キリストのため、あらゆる<sup>かんなん</sup>艱難をその身に受け」ることです。(アルマ4:13)

「父なる神のみまえに清く汚れない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない。」(ヤコブ1:27)

第3は労働です。労働は、幸福と繁栄と自尊心を生みます。またあらゆることを成し遂げるための手段です。怠惰はこの反意語です。私たちは働くよう命じられているのです。(創世3:19参照) 私たちの物質面、社交面、情緒面、霊的面で<sup>あんらい</sup>の安寧を施しによって得ようとすることは、労働によって物を得るよう命じられた神の戒めに反します。労働は教会員の生活を貫く原則にならなければなりません。(教義と聖約42:42; 56:17; 68:30-32; 75:29参照)

第4は自立です。教会と教会の会員は、自立するよう主から戒められています。(教義と聖約78:13-14参照)

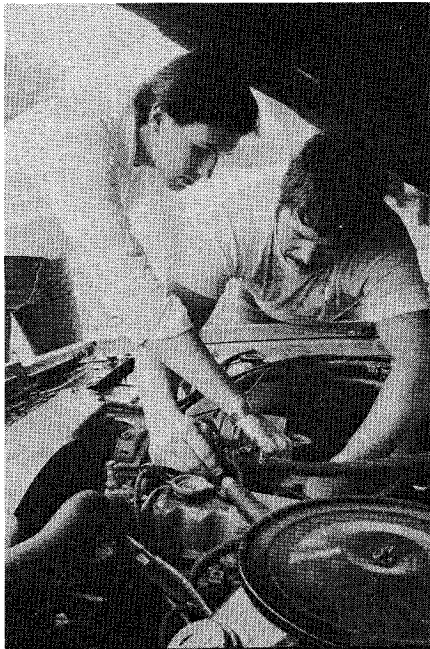
各人の社交面、情緒面、霊的面、肉体系、経済面における安寧を維持する責任は、第一に本人、第二にその家族、第三にその人が忠実な教会員であれば教会が負います。

肉体および情緒面で健康な末日聖徒は、自分と自分の家族の安寧に関して、その責任を他人に譲り渡すことはできません。主の導きを受け、力を尽くすならば、物心両面で自分と自分の家族を養うことができるはずです。(Iテモテ5:8参照)

第5は奉献です。これには犠牲が含まれます。奉献とは、霊的面であれ物質面であれ、助けを必要としている人のために、ま

た主の王国の建設のために、自分の時間と才能と財産を提供することです。福祉プログラムにおける奉獻には会員たちが生産事業で働くこと、専門的な技能を分かち合うこと、惜しみなく断食献金を納めること、ワード部および定員会の奉仕活動に参加することがあります。また、ホームティーチングや家庭訪問でも時間を奉獻します。私たちは自分を捧げるとき、奉獻しているのです。〔『偽りの神々』『聖徒の道』1977年8月号参照〕

第6は責任です。教会の会員は、霊的面もしくは物質面において神より委託を受けており、これには責任が伴います。万物は



肉を制してはじめて  
高度の靈性が得られる

主のものであり、私たちは家族をどう導き、自分の体、心、財産をどう用いるかについて、責任を負っています。(教義と聖約104：11-15参照) 忠実な僕となるには、正義に基づいて治め、自己に属するものを世話し、貧しい人、乏しい人に目を向ける必要があります。(教義と聖約104：15-18参照)

これらの原則は福祉活動の推進力です。私たちは皆、これらの原則を学び、従い、そして教えなければなりません。指導者の皆さんは会員に、父親は家族に、これらの原則を教えていただきたいと思います。私たちはこれらの真理を実践してこそ、理想のシオンへ近づくことができるのです。

シオンとは、主の誓約の民に対して主より与えられた名前であり、清い心を持ち、貧しい者、乏しい者、悩む者に絶えず援助の手を差し伸べる人々のことです。(教義と聖約97：21参照)

「主、その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」(モーセ7：18)

この神権に基づく最高の社会は、愛と奉仕、労働、自立、管理という教義の上に立てられています。そしてこれらはすべて、奉獻の誓約の中に包含されるものです。

では、これらの原則を実行に移すための活動とプログラムについて述べてみましょう。

ご存じの通り、私たちは数年前から、個人と家族の備えをかなり強調してきました。教会員全員がこの方向に向かって努力していただきたいと思います。また、この件については消極的でなく積極的に理解し、強



調するように望むものです。

扶助協会は個人と家族の備えを「将来を考へての生活」として教えていますが、私はこれを好ましいことであると思います。これは次のような意味を含んでいます。すなわち、資源を節約すること、財政計画を立てること、健康管理に万全を尽くすこと、教育と雇用条件の改善のために準備すること、家庭生産と貯蔵に関心を払うこと、情緒の安定を図ることが含まれます。

例えば、家庭菜園を造ることによって、食費を軽減し、新鮮な野菜や果物を収穫することができますが、恵みはこれだけにとどまらないことを理解していただきたいと思います。菜園の雑草を抜き、水をまくときに交わされる親と子の交流には測り知れない価値があります。種蒔きと耕作と収穫の律法を学んでいる彼らに、どれほどの恵みがもたらされていることでしょうか。また、家族でひとつのことをするには、全員が協力が不可欠です。これによって家族が一層親密になるという祝福もあります。

私たちは雇用条件の改善の意味から読み書きの能力と教育を提唱していますが、聖典や教会の出版物、そのほかいろいろな良書を読むことから直接得られる喜びも決して過小評価することがありません。私たちは家族の祈り、親切な言葉、完全な意志の疎通によって情緒の安定を図ることの大切さを教えていますが、それと同時に、礼儀をわきまえた活気のある雰囲気のもとで生活することがどれほど喜ばしいものであるかということも知っています。

個人と家族の備えの各分野は、このように、直接災害と結びつけるのではなく、日

常生活における恵みと関連してお話することができます。

これらは正しく、私たちに満足を与えるものです。したがってこれらを実践しようではありませんか。また、私たちは主の勧告に従順でありたいと願っているはずで、このような気持ちでいれば、私たちはほとんどの不測の事態に備えることができます。そして主から繁栄と慰めを与えられるでしょう。苦難の時代が到来するのは確実です。主はそのように予告しておられます。そして、シオンのステーキ部は確かに、「防<sup>ぼう</sup>禦<sup>ご</sup>のためとなり、また暴風雨<sup>さいかどこう</sup>の避<sup>さ</sup>所<sup>じょ</sup>」(教義と聖約115:6)となります。私たちは知恵を用いて慎み深く生活しているならば、主のみ手の中にあるがごとくに守られるでしょう。

私は、神権定員会と扶助協会の集会において、個人と家族の備えの考え方を正しく教え、教会員全員がこれに積極的に取り組めるようにしてほしいと思います。

また、断食の律法に関する義務についても教えていただきたいと思います。会員一人一人が貧しい人、乏しい人のために惜しみなく断食献金を納めるべきです。この献金は、少なくとも断食をしている間の2食に相当する金額でなければなりません。

「私たちは時折、惜しむ気持ちから、朝食を卵1個で済ませているので、それに相当するお金を主に納めようと考えることがある。現在は多くの人が裕福であると思うが、裕福なときは、もっと寛大になる必要がある。

私は、断食した2食分の金額ではなく、できる状態であればもっと多く、10倍以上

の金額を納めるべきであると考えている。」

(「大会報告」1974年10月, p.184)

主に従いながら貧しい生活を送っている人の必要を満たす手段として、長年の間、断食献金が使用されてきました。過去と同様に現在も、教会は、福祉プログラムにおいて現金が必要な場合にこの断食献金を使用しています。日用品は福祉生産事業から得られるようにしています。もし私たちが惜しみなく断食献金を納めるならば、私たちは霊的にも物質的にもさらに繁栄するでしょう。

兄弟姉妹の皆様、以上のことを心に留めて、この偉大な業を推進するよう私は切にお勧めしたいと思います。現状は私たちにとっても主にとっても満足すべきものではないということ、全体として、また個人として認識するかどうか、私たちの今後を大きく左右するのです。

これまで学んだ教訓を生かしていこうではありませんか。日常生活において奉仕と奉献を実行し、この世のものに打ち勝つことにより、救い主に近づき、霊的にさらに多くのことを成し遂げようではありませんか。

私たちがこぞってそのように努力するならば、私たちについて記されている「まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった」という状態に到達するでしょう。

## ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに、以下の点を話し合うとよいでしょう。

1. 隣人に対する私たちの愛、さらに主に

対する私たちの愛は、私たちがお互いに、あるいは貧しい人や悩んでいる人に対してどのように行動するかによって測られます。

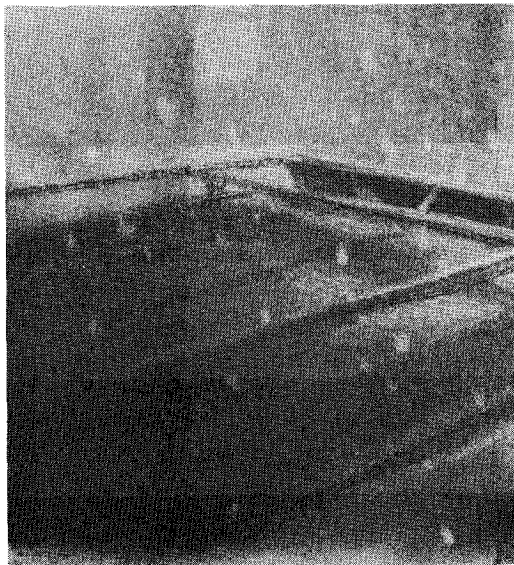
2. 労働は、幸福と繁栄と自尊心を生みまします。またあらゆることを成し遂げるための手段です。私たちは働くよう命じられているのです。
3. 各人の社交面、情緒面、<sup>人間的</sup>霊的<sup>面</sup>、肉体的面、経済面における安寧を維持する責任は、第一に本人、第二にその家族、第三に教会が負います。
4. 奉獻には犠牲が含まれます。奉獻とは、霊的面であれ物質面であれ、助けを必要としている人のために、また主の王国の建設のために、自分の時間と才能と財産を提供することです。
5. 会員一人一人が貧しい人、乏しい人のために惜しみなく断食献金を納めるべきです。そうすれば、霊的<sup>面</sup>においても物質<sup>面</sup>においても宝を増やすことになるでしょう。

## 話し合いを進めるために

1. 福祉活動の基本原則について自分の気持ちや経験を話す。家族にも話してもらう。
2. 家族で朗読したり話し合ったりすると良いと思われる聖句や引用文がこの記事の中にないだろうか。
3. 訪問の前に家長と打ち合わせの方が、良い話し合いができるのではないだろうか。福祉計画について、定員会指導者や監督から家長にあてられたメッセージはないだろうか。

# クリスマスの使い

ライラ・M・セロバー



**私** はもう何年もクリスマスのたびに、ニューヨークの新聞を読んで知った貧しく困っている家庭に衣類を贈り続けてきました。そしてその中には、必ず霊性を高めるような読み物も一緒に入れてきました。

クリスマス休暇中のある日、私が荷作りしているところをじっと見ていた夫のウィルは、私にこう言いました。「ぼくがその荷物を車で町まで運んでいったらどうかな。うちのワゴン車なら十分積めるだろう。」

私はうれしくなりました。もし夫がそうしてくれるなら、送料の高い重い冬物の衣服や食料品も持っていってもらえるのです。私はうきうきしながら、できる限りいろいろなものを集めました。その間、夫のウィルはマンハッタンやブロンクス、ブルックリンといったニューヨーク市内の地図を用意し、途中停車する場所を調べ、スケジュールを決めました。

クリスマスの前日の早朝、ウィルと我が家の十代の息子たちはワゴン車に荷物を積み込み、屋根にもいくつか荷物をくくりつけました。当日は薄曇りの寒い日でしたが、

ウィルが身につけた防寒着は帽子ぐらいなものでした。普段事務の仕事をしている夫が、外に出て仕事をするとするのはめずらしいことでしたが、それでも寒さには自信があるようでした。

荷物を積んだ車がドライブウエーからバックで出ていくのを見送りながら、私はふと不安にかられました。もし車が故障でもしたらどうしよう。道がわからなくなったらどうしよう。冷え込んできたらどうしよう。町の中でも一番犯罪の多い地区に行こうとしている夫が、襲われでもしたらどうしよう。

家に入りかけた私は、ゆっくり舞い落ちてくる雪を見ながら不安をつのらせていきました。私は家に入るなり、ひざまずき、主にウィルの安全を願い祈りを捧げました。「天のお父様、ウィルは私の使いで出ておられます……」そこまで祈って私は黙りました。何か間違ったことを言ったような気が



したのです。「いいえ、そうじゃない。夫は主の使いで出ているんだわ。」私はふと思いました。そしてそのような考えが浮かんだことに驚きました。夫は自分のために出かけて行ったなどと、私はずい分うぬぼれた考えをしていたのです。そして、彼が安全に守られるかどうかは私の祈りにかかっているなどと思い込んでいたのです。しかしその瞬間、私は神の使いで出ている夫は必ず守られるという確信を得たのです。

私は夫のことはもう心配しないことにし、立ち上がってクリスマスの準備を続けました。朝方ずい分ゆっくり降っていた雪が、昼頃には吹雪に変わっていました。午後になって、私は歩いて近くの店まで買い物に行こうとしました。しかし、雪の吹きだまりにあり、引き返さなければなりません。こんな近くでさえ歩けなくなるぐらいです。町の方はどんなでしょうか。

夕食の時間になりました。ウィルからは

まだ何の連絡もありません。夫は電話を入れると言っていたのです。心配しないという私の決心はしだいにぐらつき始めました。夜になって、息子たちが外の雪かきから帰ってきました。そしてひとりが言いました。「お父さんまだ？今頃どの辺かな。」

「お母さん。」もうひとりが言いました。「お父さん、まだ荷物届けてないんじゃないの。こんな日はきっとだれも家に入れてくれないと思うな。心配させるつもりはないんだけど……。」

「大丈夫よ、きっと。」そう言って子供たちを安心させたものの、私の心は落ち着かなくなっていました。間もなく11時を指そうとしている台所の時計を無視しながら、私は気をしっかり持ってプレゼント包みに専念していました。すると息子のひとりがほっとしたような声で叫んだのです。「お母さん、お父さんの車だよ。帰ってきたんだ。」

私はドキドキしながらコートをつかむと外に飛び出して行きました。車から降りてきたウィルは、私が想像していたほど寒そうでも、疲れ切ってもいませんでした。私には彼が、雪のために放置された車をよけながら15時間も雪道を運転し、雪の積もった歩道を荷物をついで歩き回ってきた人とはどういえず、ほんの30分ほど散歩してきた人ぐらいにしが見えませんでした。

「困ったことは何もなかったよ。全部の家族に届けてきたよ。」夫はそう言って私を安心させました。

その晩、私は夫の安全が守られたことに、そして主の方法に対する私の理解が深まったことに感謝しました。

\*セロバー姉妹は、バージニアビーチ、バージニアワード部の会員である。

# クリスマスの

**お**よそ2,000年の昔、マリヤという名前の若い女性がパレスチナの小さな村ナザレに住んでいました。彼女に最も近い家族としては、ダビデ王の子孫であるヨセフと結婚の約束をしていたこと以外何も知らされていません。

神のみもとより天使ガブリエルが訪れた日のマリヤの驚きは、いかばかりだったでしょう。み使いはマリヤにあいさつして言いました。「生まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます。」

「この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして」、このあいさつはなんのことだろうかと思ひめぐらしていました。(ルカ1:28, 29参照)それからみ使いはマリヤに、神から恵みを受けて神の独り子の母となることを告げ知らせました。

み使いの説明では、幼な子は聖霊の力を通して彼女に生まれ、それゆえに聖なる者となるのでした。御子を受け入れるすべての霊を救うことから、その名はイエスと、となえられることになっていました。

「彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう」とガブリエルは言いました。イエスは王となり、とこしえにイスラエルの家を支配し、さらに世の贖い主となるのです。

マリヤは事情がのみ込めずに、「どうして、そんな事があり得ましようか」(ルカ1:34)と言いました。み使いはそれが聖

霊の力によって超自然的に起こると説明しています。(ルカ1:26-35参照)

み使いはマリヤのいなすけのヨセフにも訪れました。ヨセフは素直な心の持ち主で、み使いの言葉をすべて理解しました。こうして処女マリヤは、メシヤなるイエス・キリストの母となるのです。

イエスの誕生が近づいた頃、マリヤとヨセフはパレスチナの別の村ベツレヘムへ旅をしました。ふたりは子供を産むために宿屋に泊まりたいと思ったのですが、部屋がありませんでした。政府の命令による人口調査のために、ベツレヘムにはたくさんの人々が集まっていた。彼らはマリヤとヨセフよりも早く着いたので、宿屋が全部ふさがっていたのです。

イエスが生まれそうになって、ふたりはほら穴かうま屋に場所を見つけ、マリヤはそこで子供を産みました。そこにはベッドやそのほかの設備もなく、幼な子は飼い葉おけに寝かされました。

これが最初のクリスマスでした。飾りつけも、家族のパーティーも子供の遊ぶ姿もありませんでした。しかしそこにはかつてないほどに偉大な歓喜の歌がありました。

天使たちも神の御子の誕生を祝う壮大な合唱に加わり、今や世の救いが始まりました。救いはすべての人類にもたらされ、死は征服されました。やがてこの幼な子が成人して復活がもたらされ、人類は再び生き



# 贈り物

マーク・E・ヒーターゼン

(1984年刊用に就まるまでキリスト  
使徒定員委員会として務めた)

ることができるのです。

クリスマスの贈り物ですか？当時はありませんでした。博士たちが捧げ物を携えてやって来たのは後になってからです。

しかし今や神は、神の独り子という贈り物を世に賜ったのです。そしてこの御子は地上に生まれてきたことで、ご自身をとこしえの大いなる贈り物として捧げられたのです。

主は私たちに救いの計画を与え、私たちが墓からよみがえって永遠に幸福な生活が

送れるように、主みずからの命を捧げてくださいました。これ以上のものをだれが与えられるでしょうか。

なんとすばらしい贈り物でしょうか。この贈り物が私たちにとってどんなに大切か、考えてみてください。

こうした贈り物に対して、私たちが自分で身につけることのできるものがあります。それは、マリヤの示した忍耐、献身、忠実さです。またその御子からは、世にあって世のものとならずに真に福音の原則に従うことを学ぶことができます。

マリヤもまた、神の御子を幼い頃から成人するまで養育し、しつけるという贈り物をしてくれました。養育に費やした時間と月日、献身に重ねた歳月はいかばかりでしょう。

この最初のクリスマスとメシヤなるイエスの誕生により、イエスを偉大ならしめた特質を私たちの生活にもあてはめることができます。

親切と思慮深さを身につけ、他人に対して正直で公正になることができます。隣れみを大切なものとして性格の一部に取り入れることもできます。さらに清さがあります。御子は教えられました。「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」(マタイ5：8) 私たちは皆、すべての行ないを清く汚れないものにすることができます。純粹な靈的清さこそは、ほ



かのいかなるものにもたとえることができ  
ません。

イエスによって、私たちは最も深い交わりを永遠に持つことができます。永遠の家族関係です。両親と結び固められた私たちは、愛する永遠の家族の一部となるのです。実に貴い贈り物だと思いませんか。これも最初のクリスマスに由来しています。

聖なる婚姻関係のもとで子供たちに恵まれた場合、彼らもずっと私たちと一緒になのです。これ以上何を望めましょう。これも、最初のクリスマスの夜にお生まれになったマリヤの息子から受ける祝福の一部です。このすばらしい出来事に天使たちが歓喜の歌を歌ったとして何の不思議がありません。

人生で価値あることは、すべてイエスを通して私たちのものになります。しかし彼が私たちに望むのは、永続する贈り物を選ぶようにということです。主は言われました。「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

あなたの宝のある所には、心もあるからである。」(マタイ6:19-21)

このことを心に留めて、主はさらに言われました。

「空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼

らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくして下さらないはずがあるうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:26-33)

これらは本当のクリスマスの贈り物です。あの最初の聖夜からくる祝福です。天使ガブリエルがマリヤに告げた言葉の意味を心から思い起こせば、それらは私たちのものとなります。マリヤの、そして神の子であり、創造主、贖い主、全人類の救い主である方の使命の一端をになうことで、私たちがのものとなるのです。



# 「敵を愛せよ」の教え

レナ・N・エバース

「敵を愛してください」と、ある朝、日曜学校の教師が言いました。「皆さんを憎む人に親切にしてください。そしてその結果を見てみましょう。」

このチャレンジを受けたとき、私の証はまだ固まっておらず、この聖書の教えが実行できるものかどうか、疑っていました。自分の実生活にはあてはまりそうにない感じでした。でもまあやってみよう、敵がもしあればの話だけど、と思いました。

しばらく考えてみて、自分には敵というほどの人はいないから、話はもうそれで済ませようという気になりました。ところがそのとき、ふっとある出来事を思い出したのです。私たちが4軒並んだ社宅の一番端に引っ越してきたときのことです。戸外の水道の蛇口が壊れていました。私は隣の奥さんに、芝生に水をやりたいのでお宅の水道にホースをつなげさせていただけませんかとお願いました。(水は無料でした)すると彼女は「いいえ、だめです。もし自分の家のが壊れているなら直せばいいでしょう。二度と言っ<sup>て</sup>こないでください」というお

返事でした。

何ということ、これからは決して相手にしないわと思いました。それからしばらくして、彼女がアパートの反対の端に移りました。彼女がお隣でなくなってよかったと思いました。

そこで、あなたの敵を愛しなさいというチャレンジです。敵という形容にあてはまりそうな一番身近な人は彼女でした。そのほかは皆友人ばかりでした。「頑張ってみよう!」そう思いました。

私は毎日自分の洗濯物を、その女性のアパートに近い所の建物の端に張ってある物干し綱にかけていました。彼女はいつもひとりポーチに座っていました。いつもなら私は彼女を無視するのですが、そのときは、敵を愛せよという戒めを試してみようと心に決めていました。

翌朝私が洗濯物を干しに出ると、彼女はいつものようにポーチに座って、コーヒーを飲みながらタバコを吸っていました。私は彼女にほほえみかけ、明るい調子で「こんにちは!」と言いました。彼女は私をに





らみ、ぶいと横を向きました。

「今度はこたえませんよ。」私は心に思いました。「実験中なのですからね。」服を干し終えたとき、彼女は家の中に入ってしまっていました。

それから毎日、彼女の前を通るたびに楽しみに「こんにちは」と呼びかけ続けましたが、彼女からは一度も笑顔や返事は返ってきませんでした。ところが2週間ほど過ぎたある朝のことです。驚いたことに、洗濯物を干している私の所へ彼女がやって来て、お天気についてひと言ふた言やりとりがあったのです。

その後は私が外へ服を干しに出るたびに彼女が来て、言葉を交わしました。でも個人的な話は全然しませんでした。夫が働いている会社の話やお天気の話やスーパーの安売りの話などで、どう考えてみても、私たちが友達だという気持ちはまるでませんでした。彼女はいつも冷たくとりましていました。

そんなある日、夫と私に別の土地への転勤が知らされました。翌朝洗った物を干しに出ると、あの女性がいつものように話をしに、物干しの綱の所へやって来ました。私は引越すことになったと知らせました。それについて少し話をしてから、私は自分のアパートに戻りました。

帰ってきて1時間ほど経ったときです。あの方が玄関に姿を見せました。彼女を見て私はとても驚きました。どちらもそれま

で相手のアパートを訪ねたことがなかったからです。彼女はいつもとは違った緊張した表情をしていました。中に招き入れ、座っていただいて、少し話でしようとしたのですが、話すことが何も思いあたらないのです。

すると、彼女が目には涙をあふれさせて、胸が張り裂けるような様子ですすり泣き始めました。私に引越されるのがつらいとおっしゃるのです。「あなたは世界中でたったひとりの友達です」と彼女は言いました。

私が！どうして私が。彼女の名前さえ知らないというのに。

その友に対して、言うべき言葉は思いあたりませんでした。ただわかっていたのは、私たちはもう敵ではないということだけでした。

「ああ、父なる神様、あなたのみ言葉を疑った私をどうぞお赦ゆるしてください。私は彼女のために本当に何もしませんでした。ただ、こんにちはと言って、少し話をただけでした。それなのに、何と大きな証をいただいたことか。」

福音の原則は、どんなに小さな方法でも、守ることによって必ず真理を理解させてくれるものなのです。私はそのことを、そのときばかりでなく、それから幾度も、自分で経験してきました。

\*レナ・N・エバース：2児の母。現在はネバダ・ラスベガス伝道部の専任宣教師として働いている





それから毎日、彼女の前を通るたびに  
楽しげに「こんにちは」と呼びかけ続  
けましたが、彼女からは一度も笑顔や  
返事は返ってきませんでした。



# ジョセフ・ スミスの 霊性

ティーン・C・ジェシー

**生**きている予言者を認めることは、昔からある人々にとってむずかしいことでした。イエスを見た古代のユダヤ人は、「この男は罪人だ、欲ふかな大酒飲みだ」と言い張りました。また、「神はモーセに語られたのだ。このような男の素性は知ったものではない」と言いました。<sup>1</sup>

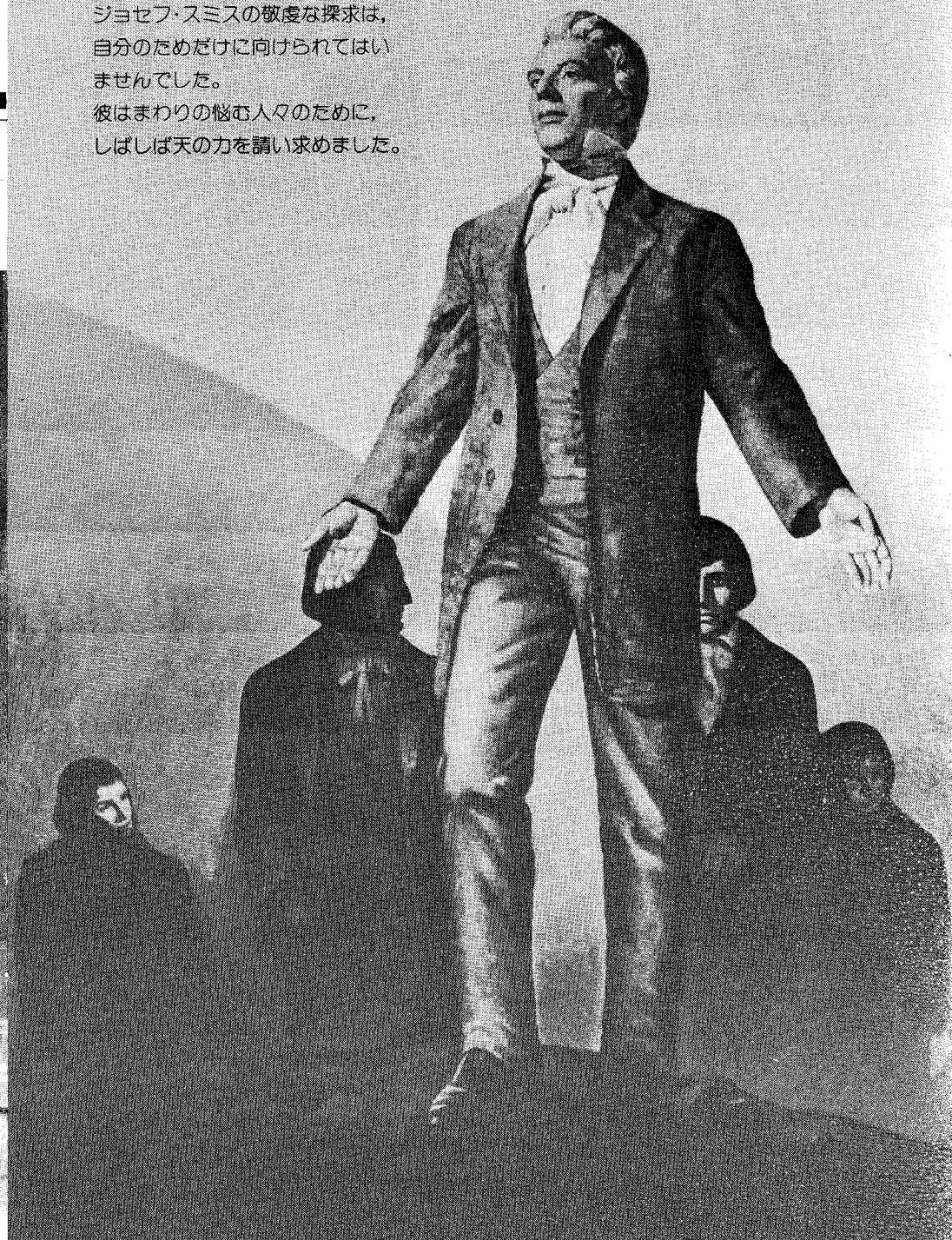
ジョセフ・スミスの時代の人々にとって、この試しは同じでした。ひとつの問題は、予言者とはどのようなものであるかという先入観が、現実には歩き、話し、生活する人間になかなか合致しなかったことです。

ある人々の期待に反したと思われるのは、ジョセフ・スミスの気やすさでした。教会員でさえ、初めて会った人たちは愛想よく快活な彼に意外な印象を受けました。オハイオ州カートランドに到着してまっ先に、ジョセフを訪れたある末日聖徒がこう書いています。「ジョセフ・スミスは予言者にしては変わっていると思った。神の予言者として私が予想していた通りではな

かった。しかし、それは私にとってまったくつまずきにはならない。彼は親切で、快活で、陽気で、愛想のよい人だった。好きにならずにはいられない人だ。」<sup>2</sup>また、ある改宗者はイギリスの友人に、ジョセフ・スミスは「聖人らしくいかめしい人では決してなく、まったく正反対です。率直で正直で明るい人柄のため、どうかと思う人もいるにはいますが、私はそんな彼を一層好ましく思います」<sup>3</sup>と書き送っています。

時にジョセフの快活さは、人なつこい笑顔や心を込めた握手を越えて、愉快な力だめしにまで及びました。少年時代にノーヴーに住んでいたある人が回想して語っています。「予言者は子供好きで、マンションハウスから出てきて少年たちとよく野球をした。ジョセフはいつもルールを守った。打つ順番がまわってくるまで外野をして、番が来ると実にかがしりした人なので、ノックした球は遠くまで飛び、それを受けた者は予言者がごちそうしてくれる

ジョセフ・スミスの敏度な探求は、  
自分のためだけに向けられてはい  
ませんでした。  
彼はまわりの悩む人々のために、  
しばしば天の力を請い求めました。



ぞと、みんなで叫んだものだ。それを聞いて予言者は笑った。ジョセフはいつも人が良く、楽しさ一杯だった。彼がマンションハウスの事務所でじゅうたんのの上に座り込み、ノーブーの警察官と棒の引き合いをするのを見たこともある。」<sup>4</sup>

しかしある人たちにとっては、ジョセフ・スミスの朗らかさが信仰の障害となりました。ジョージ・A・スミスは、「予言者ジョセフが翻訳室から出てきて、自分の子供たちと遊びに出かけたのを目にした」<sup>5</sup>ため、教会を去った家族がいたと記録しています。以前はモルモンで、オハイオの新聞に書簡を載せ、教会に対する反感をおったエズラ・ブースは、「しゃれや冗談の絶えない性癖」<sup>6</sup>を理由に、ジョセフ・スミスの予言者としての人格を攻撃しました。また、ジョセフの晩年にイリノイ州知事であった、モルモン教徒ではないトーマス・フォードは、自叙伝にこう記しています。「予言者が暗く陰気で、長いあごひげをつけ、いかめしく厳かな風貌ふうぼうに無口で気品ある様相だと推察してはならない。反対に、彼は軽薄で、まるで子供のようにはしゃぐ男だ。」<sup>7</sup>

ジョセフ・スミスは、あるときノーブーの聖徒たちに話をした中で、自分の「陽気で朗らか」<sup>8</sup>な気性を認め、自伝に「私は軽率な行動を犯し、ある時は陽気な連中と交わりなどし」と書き、それは「私の性来陽気な気質をよく知っている者には、甚しく不思議には思われないであろう」<sup>9</sup>と語っています。

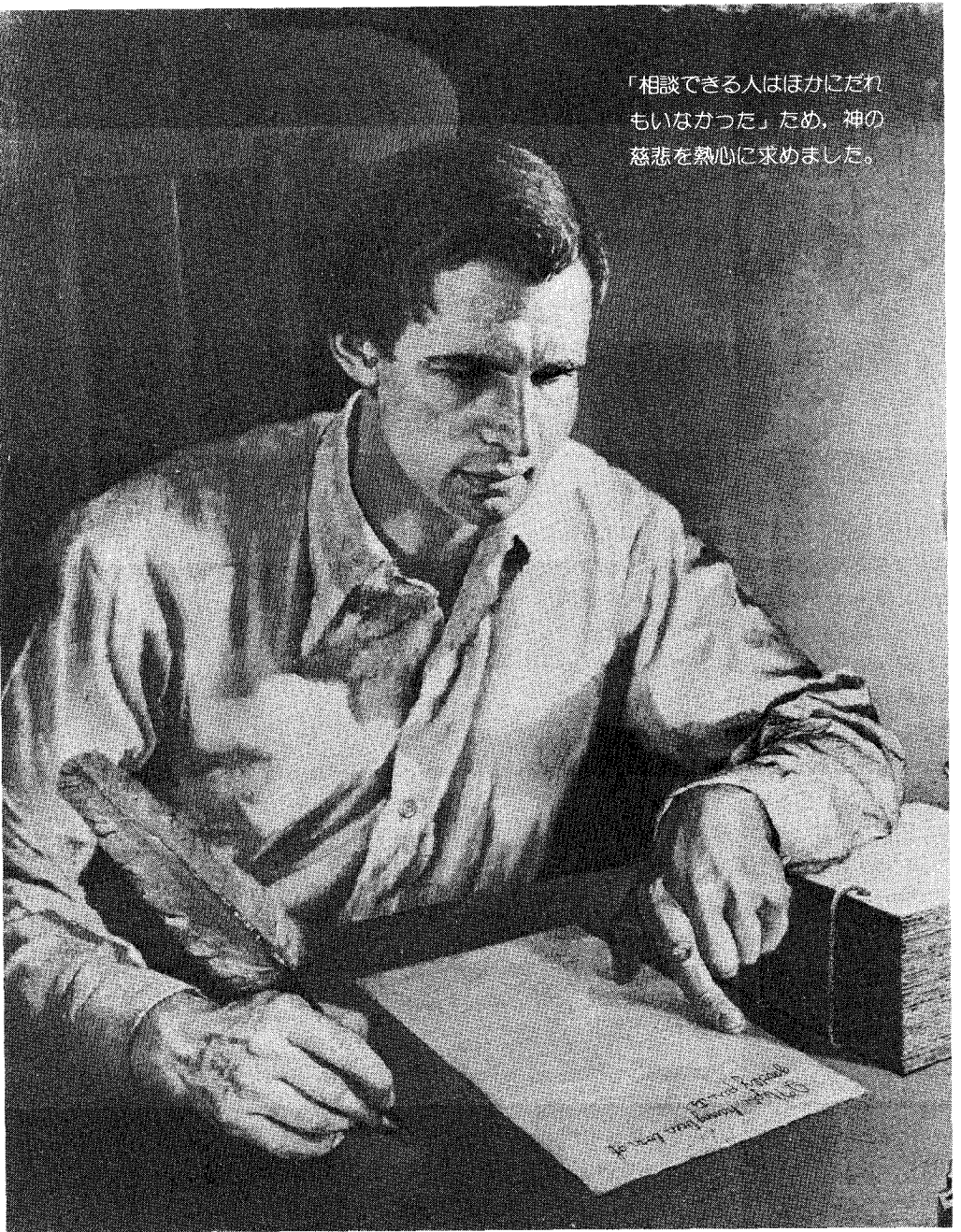
自分の持つ予言者のイメージにそぐわないからとジョセフ・スミス拒む人がいた一方で、彼のしたことに神のみ手を見ることができずに離れる人々がありました。

ジョセフ・スミスは1842年にノーブーに到着したばかりの移民団に対して、離反の心は「勧告を無視した」結果生じると述べました。その移民団と一緒に着いた大勢の者が受け入れ態勢に満足できず、「すべてがすべて完璧な状態に処理されていない」ことに不平を言っていると言うのです。ジョセフは、自分の行動については、自分もただの人間なので、完璧を期待してはならないと語りました。<sup>10</sup>彼はこのことについてさらにこう言っています。「私は間違いをするが、人に告発されて然るべき間違いはしない。私の犯す間違いは人と同じで、人間的な弱さから来るものだ。生身の人間で欠点のない者はいない。」<sup>11</sup>

ジョセフの宗教心の根底には、家族の伝統が深く影響していました。精神の形成に、家庭が大きく寄与していたのです。予言者は家庭の伝統をひと言で、自分は「キリスト教の信仰を骨身惜しまず私に教えてくれた良い両親の下に生まれた」<sup>12</sup>と書いています。彼は終生、「胸に刻みつけられた」「やさしい両親の言葉」<sup>13</sup>を忘れませんでした。

ジョセフ・スミスの一生を通り一遍に見れば宗教的経験が当然のように見えるかもしれませんが、彼自身の書いたものを読むと、彼は前もって多大な犠牲を払っていたことがわかります。ジョセフはそれまで耐えてきた数々の試練の厳しさを振り返り、こう語っています。「人の猜疑さいぎと忿怒ふんごとが一生を通ずるわが日常のさだめなるが故ゆえに……いつもの如くわが泳ぐべき水は深し。」<sup>14</sup>1843年にはこう述べています。「もし神より召されてこの業を行なっているのでなければ、私はやめてしまうだろう。しかしやめることはできない。なぜなら、

「相談できる人はほかにだれもいなかった」ため、神の慈悲を熱心に求めました。



この業が真実であることは疑問の余地がないからである。」<sup>15</sup>

この確信を得るまでの代価は、「時間と、経験と、慎重で深い厳粛な思考」<sup>16</sup>から見て大きなものでした。ジョセフの母親は、子供時代の彼が「宗教的ないろいろなことについて、いつも同じ年頃の普通の子供たちよりずっと深く考えているようだった」「思索やわき目もふらぬ勉強に時間の多くをさいていた」<sup>17</sup>とのちに語っています。

彼の父親は、祝福師の祝福を与えた中で、「あなたは神の道を求め、若いときから神の律法につける様々な事柄を学んできた」<sup>18</sup>と述べました。

ジョセフは見神を語った初期に、探求や神聖な感動、人々に対する不安、聖句や教師たちへの関心、長年に及ぶ思索、両親の教え、罪を悲しむ気持ち、あるいは自然界の働きを深く考察したこと、「相談できる人はほかにだれもいなかった」ため神の慈悲を熱心に求めたことなど、あの出来事に先立つ辛苦しんくを詳しく語りました。彼はその経験を自分の手で書きとめています。

「心が非常に痛んだ。というのは、自分の罪を悟り、また聖典を調べることによって、人類が主のもとに来ておらず、真の生ける信仰を捨てて、新約聖書に記された通りのイエス・キリストの福音にのっとった組織、教派がひとつもないことを知ったからである。それから、自分の罪と世の人々の罪が悲しく思われた。聖典から、神はきのうもきょうも永遠に同じくいまし、神なるが故に人々を偏り見ることはないとわかったからである。というのも、私は地球を照らす輝ける発光体、すなわち太陽と、また堂々天空をかけり行く月と、またそれぞれの軌道に輝く星々と、そしてまた私が

こうして立ち、野の獣と空の鳥と海の魚、また人間が威風堂々力強く美しく歩み、万物を治めるその力と英知の創造主にも似て甚だ優れてすばらしいこの地球を見た。そしてそれらについて思うとき、私の心は叫んだ。神無しとつぶやく者は愚者なりと賢人よくぞ言いたり。私の心はまた叫ぶ。すべての事柄、上に述べたすべての事柄が全智全能の力を有する方の存在を証し、示している。この方は律法を作り、万物をその枠内に定め据え、永遠を満たし、過去現在未来にわたって永遠から永遠にまします。またこれらすべてのことを考え、このお方が霊とまことをもって礼拝するように神を拝むことを人に求めておられる事実を考えたとき、私は主に慈悲を願い求めた。行って恵みが得られるお方はほかにだれひとりいなかったからである。」<sup>19</sup>

ジョセフ・スミスは小さいときから、「神は人を創造されたとき、人に学び取るのできる頭脳と、天より与えられる光にどれほど心を留め、かつ勤勉であるかに応じて高められる能力とを人に与えられた」<sup>20</sup>ことを知っていました。

彼が自分で心がけていたこの「心を留めかつ勤勉である」ことは、一生の間に残した宗教に関する多くの書き物によって、幾分かを知ることができます。日記の端々を読めば、彼が常に探究の心を持ち続けていたことがわかります。

「雨の中を駆けて、非常に疲れて帰宅した。一日の残りを読書と瞑想めいそうに費やした。」<sup>21</sup>

「午後、熱で具合の悪い父を見舞う。その後は読書と瞑想に過ごした。」<sup>22</sup>

「在宅。きょうは自分の召しのため、知



時にジョセフの快活さは、人なつこ  
い笑顔や心を入めた握手を越えて、  
愉快な力だめしにまで及びました。



識をたくわえることに専念。一日が実に楽しく過ぎた。自分の霊に主の祝福のあることを、また家族に慈悲があって私たちの命が守られていることを感謝する。ああ、私と家族をキリストにあって引き続きみ守りたまわんことを。」<sup>23</sup>

「勉強を続けた。ああ神よ、私に学問を、とりわけ語学を授けたまえ。命ある間にみ名を大いならしめるだけの能力を与えたまえ。」<sup>24</sup>

ジョセフは、1832年に、オハイオ州カートランドのホイットニーの店に置く品物をニューエル・K・ホイットニーと共に買いに出かけたニューヨーク市から、こうした思いを妻に書き送っています。彼は町の「最もきらびやかな場所」をしばらく歩いた後でこう書いています。

「建物は実に立派ですばらしく、見た人はだれでもびっくりする。私は心にこうつぶやいた。全地の大いなる神、驚嘆すべきみごとなあらゆるものの造物主は、人の希求するこれらのすぐれたすべての発明に不興を覚えられるだろうか。答えは否である。これらの業は人を快適に、聡明に、幸福にするもくろみであるから、神の不興を呼ぶはずがない。したがって、神の不興を買うのはその物ではない。人に対して主の怒りが燃えるのは、ただ人が栄光を主に帰さないときだけである。」

そして彼はこう書いています。

「私は瞑想し、心を静めるため、部屋に帰った。すると何と、家庭のことやエマ（妻）、ジュリア（娘）に対する思いがあふれるように胸に突き上げてきて、しばし彼らと共にいられたらと思った。私の心は今、親として、夫としてのやさしさやそのほかの思いに満ちている。だがこの大都会

に思いを移せば、胸中は彼らへの同情に満ち、私は高く声を上げ、事を神にゆだねようと決心する。」

そして、最後にこう言っています。

「私は町を歩いて人の道楽を見るよりも、読書や祈り、聖霊との交わり、君に手紙を書くことの方が好きだ。」<sup>25</sup>

ジョセフはホイットニー兄弟とのこの旅行中に、死の瀬戸際までいく重い食中毒にかかりました。妻にこうしたためています。

「主は私を支えていてくださる。喜んでいようと努めるが、状態は非常に良くない。町のすぐ裏手に森があり、ほとんど毎日のようにそこに行つては、人の目を避けて瞑想と祈りをし、自分の心のうちをすべて打ち明けた。……神は、神を信じ、神のみ手にへりくだる人にはだれでも慰め主を送ってくださるのでうれしく思う。」<sup>26</sup>

ジョセフ・スミスの敬虔な探求は、自分のためだけに向けられてはいませんでした。彼はまわりの悩む人々のために、しばしば天の力を請い求めました。彼は兄ハイラムにあてた初めの頃の手紙にこう書いています。

「けさ（ある姉妹に<sup>かんじゆ</sup>灌油を施すために）暗いうちから呼び出されて出かけて行った。そしてそこでサタンとの大変な闘いがあった。しかし神の力に守られてサタンは追われ、その女性は正常な状態を取り戻した。主はこの地で奇跡を行なわれる。」<sup>27</sup>

ジョセフは1835年10月に、義理の姉妹であるメアリー・ベイリー・スミスの枕元に呼ばれました。彼女は「非常に危険な状態」で出産の床についていたのです。ジョセフは弟のドン・カルロスに医者を呼びに行かせてから、「野原へ出て行き、主の前にぬか



ジョセフは死の直前に、「一生にこれまでなかったほど、神と近く交わり、神と調和する」気持ちだと語りました。

ずき、彼女のために力ある祈りにより主を求めた。」すると「主のみ声が私に聞こえ、『わがしもペフレデリック（医師）は来て、適切に処置をすべく授けられた知恵を持ち、しかしわがはしためは生ける子を生子、命を救われる』と言われた。医師が到着して、短時間の内に無事子供が生まれました。「こうして、神が私に示されたことが細部にわたって成就された。」<sup>28</sup>

ジョセフ・スミスの一生は、彼自身が書き残したものに限らず、彼を知る人々の手によっても語られています。チャールズ・デイナは、ノーヴで妻が重病を患い、死を覚悟したときのことを記録しました。彼は絶望の中で「勇気をふるい、ジョセフ兄弟の所へ行った。」

デイナ兄弟は予言者が多忙で、失くなった重要書類のことで頭が一杯なことを知っていました。ジョセフがほかの数人と共に紛失物を捜しに家を出たとき、彼は機会をとらえ、「彼が門から出ようとしているときに」「ジョセフ兄弟、おいでいただき、妻に癒しの儀式を施してくださいませんか」と言いました。「できません」というあわただしい返事でした。しかしデイナ兄弟は目に涙をためて、「ジョセフ兄弟、妻は死にそうなのです。死なせたくないのです」と訴えました。

彼はこう記しています。

「ジョセフ兄弟は振り返って、私の顔を見、『すぐに行きましょう』と答えられた。私の心は喜びに躍った。急いで家に帰った。私が家に帰り着くとすぐジョセフ兄弟が来られた。私に『いつ頃から悪かったのですか』と聞かれた。それから数分間、部屋を歩きつ戻りつされた。快復の見込みがないと思っておられるのかと心配になり

始めたが、ようやく暖炉の所に行って両手を暖め、外套を脱ぎ捨て、ベッドに行つて手を妻の上に置かれた。その灌油かんゆの儀式の最中に、彼は困惑した様子に見え、病魔が、いや悪霊が彼を捕らえた。が、ジョセフ兄弟はそれに打ち勝ち、妻に大いなる祝福を告げられた。」<sup>29</sup>

後にジョセフの兄ハイラムと結婚したメアリー・フィールディングは、1837年の夏に大病をしてあやうく死を免れた予言者のもとを訪れました。当時は予言者に対する敵意が抑えようのない状態で広がっていました。彼女は次のように書いています。

「彼は自分を、神がさせてくださること以外何ひとつできないただのつまらない人間と思っている。彼はたいそう幸せそうだ。病気のときの気持ちをいくらか話してくれた。弱くて自分で祈ることができないときに敵が彼に襲いかかったという。悪魔との闘いが時にはあまりに激しいため、妻が友人を呼んで、良い霊が勝つよう祈ってもらわなければならなかった。時折体の苦しさをすっかり忘れさせるようなすばらしい示現に恵まれた。前に述べた日曜日の夜、臨終も間近のように思われたとき、善良なカーター兄弟を初め数人が主の家に集まり、彼のためにほとんど夜通し、断食して祈った。カーター兄弟は示現で、墓が彼（予言者）を受け入れるように開いているのを見たが、土がひとりで落ちてきて墓を空のまま埋めるのを見た。このときから彼は急速に快復し始め、その後3、4日で戸外に出ることができた。彼を愛する人たちはもちろん大喜びした。彼は、たとえどんなに多くの人が自分の死を願っても、自分は職務にしっかり立ち、神が命じられた仕事を為しとげると言っている。」<sup>30</sup>

ジョセフ・スミスの一生の断片を記録したこれらの資料が浮き彫りにするものは、彼の絶え間ない深い宗教経験です。ジョセフは死の直前に、「一生にこれまでなかったほど、神と近く交わり、神と調和する」<sup>31</sup> 気持ちだと語りました。実に彼の霊性こそは一生を貫いた一番の特性であったのです。「人間のおろかさ」を持ち、過ちのない生活ではなかったことを彼はみずから認めています、その弱点は霊的交わりの繊細な回路をささげりはしませんでした。

\*ディーン・C・ジェシー：プリガム・ヤング大学、ジョセフ・フィールディング・スミス教会歴史研究所の歴史研究員

1. マタイ11：19；ヨハネ9：24, 29
2. ジョナサン・クロスビー “A Biographical Sketch of the Life of Jonathan Crosby Written by Himself” (自筆ジョナサン・クロスビー略伝) 教会記録保管庫 ソルトレーク・シティ
3. ジョン・ニーダムよりトーマス・ウォードへ 1843年7月7日付
4. アルート・ヘイル “First Book or Journal of the Life and Travels of Aroet L. Hale” (アルート・L・ヘイルの生涯と旅、第1編) 教会記録保管庫
5. ジョージ・A・スミス “History of George A. Smith” (ジョージ・A・スミスの経歴)
6. エズラ・ブース “Letter No.VII” (書簡第7) オハイオ・スター紙 1831年11月24日
7. トーマス・フォード “A History of Illinois” (イリノイ州史) ミロ・M・クエイフ編 シカゴ ウェルフォード・ウッドラフの日記によるジョセフ・スミスの言葉 1843年5月27日 「教会歴史」5：411
9. ジョセフ・スミス伝A-1巻, p.133 教会記録保管庫「教会歴史」1：9-10にも収録
10. 「教会歴史」5：181 原文は発見されていない。
11. エライザ・R・スノーの記録によるジョセフ・スミスの説教 “A Record of the Organization and Proceedings of the Female Relief Society of Nauvoo” (ノーブーの婦人のための扶助協会の組織と決議録の報告) 1842年8月31日 教会記録保管庫 ジョセフ・スミス「教会

- 歴史」5：140にも収録
12. ジョセフ・スミス “A History of the Life of Joseph Smith, Jr.” (ジョセフ・スミス〔二代目〕伝) 教会記録保管庫
  13. 「教会歴史」5：126
  14. 教義と聖約127：2
  15. ジョセフ・スミスの日記 1843年4月6日 教会記録保管庫 「教会歴史」5：336にも収録
  16. ジョセフ・スミスその他よりイリノイ州クインシーの教会へ 1839年3月25日 教会記録保管庫 「教会歴史」3：295にも収録
  17. ルーシー・スミス ジョセフ・スミス略伝 下書き, pp.40, 43 教会記録保管庫
  18. ジョセフ・スミス (初代) 祝福師の祝福第1巻, p.3
  19. ジョセフ・スミス “A History of the Life of Joseph Smith, Jr.” (ジョセフ・スミス〔二代目〕伝) pp.1-3
  20. “The Elders of the Church in Kirtland to their Brethren Abroad” (カートランドの教会の長老から海外の兄弟たちへ) イブニング・アンド・モーニング・スターII (オハイオ州カートランド 1834年2月)
  21. ジョセフ・スミスの日記 1835年10月5日 教会記録保管庫 「教会歴史」2：287にも収録
  22. ジョセフ・スミスの日記 1835年10月6日 教会記録保管庫 「教会歴史」2：288にも収録
  23. ジョセフ・スミスの日記 1835年12月21日 教会記録保管庫 「教会歴史」2：344にも収録
  24. ジョセフ・スミスの日記 1835年12月22日 教会記録保管庫 「教会歴史」2：344にも収録
  25. ジョセフよりエマ・スミスへ 1832年10月13日 復元末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管庫 図書館 ミズーリ州インデペンデンス
  26. ジョセフ・スミスよりエマ・スミスへ 1832年6月6日 教会記録保管庫
  27. ジョセフ・スミスよりハイラム・スミスへ 1831年3月3日 教会記録保管庫
  28. ジョセフ・スミスの日記 1835年10月27日 教会記録保管庫 「教会歴史」2：292-93にも収録
  29. チャールズ・R・デйна “An Abridged Account of the Life : Travels Etc. of Elder Charles R. Dana Written by Himself” (小伝, みずから記したチャールズ・R・デйна長老の旅行記) 教会記録保管庫
  30. メアリー・フィールディングよりマーシー・トンプソンへ 1837年7月 教会記録保管庫
  31. ジョセフ・スミスの説教のウィリアム・クレイトン報告 1844年4月6日 教会記録保管庫 「教会歴史」6：288にも収録

# ジョセフの 赤レンガの店

ポール・トーマス・スミス

ジョセフ・スミスが36歳の誕生日を迎えようとしていた前日、1841年12月22日のことです。ミズーリ州セントルイスで購入した幌馬車13台分の雑貨品が、イリノイ州ノーブーに到着しました。新しい雑貨店の開店を前に、たなに品物を並べる準備をしていた予言者は、大喜びでその品物を受け取りました。

ジョセフのその2階建ての店は、外側が赤レンガ造りで、聖徒たちの間でたちまち赤レンガの店として知られるようになりました。

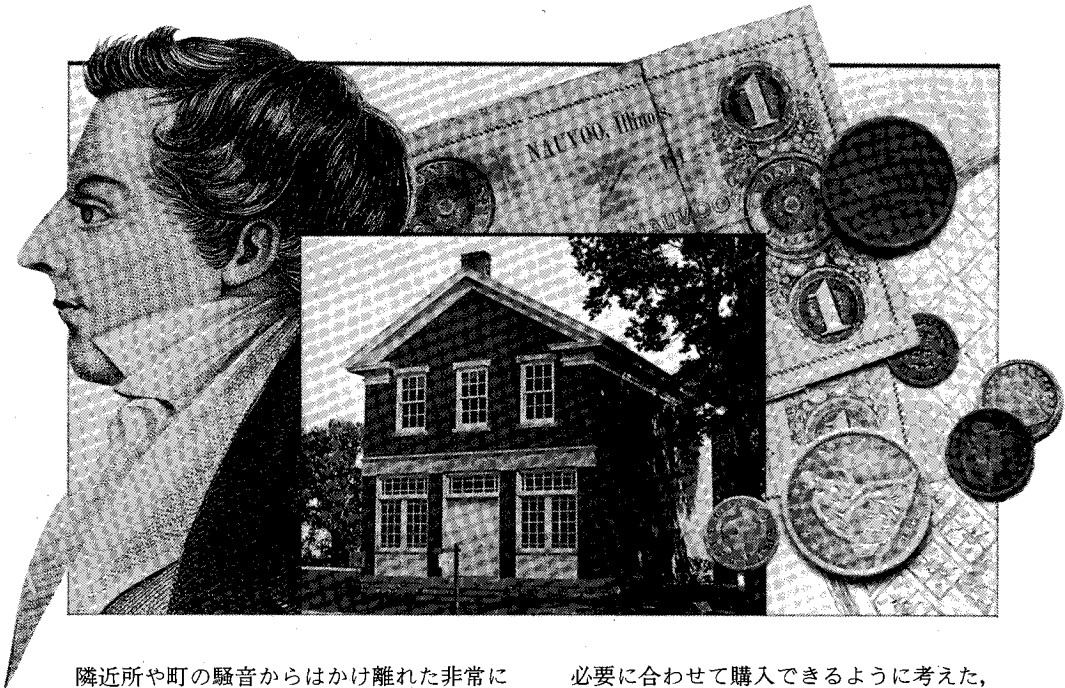
店の中は、職人技術の典型と言えるほどのすばらしいきばえでした。仕事仲間のエドワード・ハンターにあてた手紙の中で、ジョセフは店内の様子を次のように述べています。

「建物の下（1階）の高さ3メートルの主要部は、開き戸の部分を残して、もっぱらたなや引き出しにあてられている。その

ドアの左側には地下貯蔵室と控え室に続く階段があり、右側には会計室（店員が会計記録をつけたり、小規模な金融代理店を経営したり、ノーブー館への寄金やノーブー神殿建設資金を受け取るのに使っていた所）がある。控え室に続く階段の一番上のスペースは、1階と同じ大きさの広い居間に続いている。そして壁にはカウンターがずらっと並んでおり、その上には保存品が山積みされている。（ジョセフはよく、この部屋を自分の総事務室と呼んでいた）

階段の前のドアを開けると、個人の事務室があり、そこには神聖な書類が保管されている。（ジョセフはここで啓示を受けたり、タイムズ・アンド・シーズンの編集にあたり、アブラハムの書の出版の準備や讚美歌集、教義と聖約、モルモン経の改定版の印刷の準備をした）南に面した窓からは、川が見おろせる。シーズンになるとボートがいくつも浮かぶ川の向こう岸は、





隣近所や町の騒音からはかけ離れた非常にすばらしい所である。概して、主が心から祝福してくださるような場所である。」(45隻以上もの蒸気船が、移民して来た改宗者をニューオリズからノーヴーの波止場まで運んだ。蒸気船の中には、メイド・オブ・アイオア、ジョン・シモンズ、アリエルなどもあった)

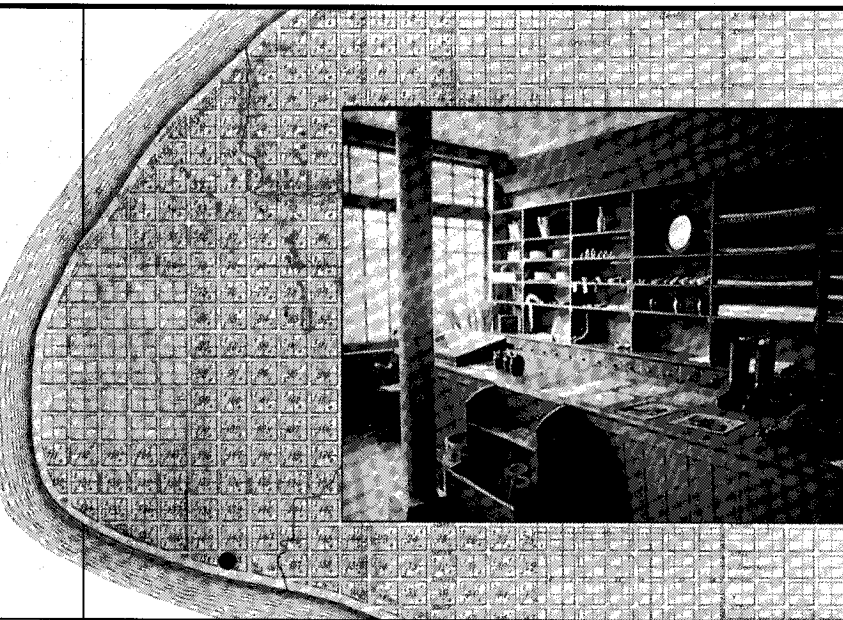
1842年1月5日、両開きのドアが大きく開けられ開店したこの店は、人々の評判がよく、ジョセフは大変気をよくしました。彼はこう書いています。「店はあふれんばかりの人でごったがえしている。砂糖や糖みつ、レーズンなどを切らして、いつものクリスマスや新年のごちそうなして済まさないければならない人々に喜んでもらうために、私は一日中カウンターの後ろに立ち、どの店員とも同じように絶えず商品売っている。我々のとりそろえた品物は、人々が

必要に合わせて購入できるように考えた、非常に良い物ばかりである。多くの貧しい兄弟姉妹がいろいろな品物が身近に手に入ることで喜んでくれると思うと、できる限りのことをしてよかったと思う。」(「教会歴史」4:491-92)

ジョセフの店では食料品も雑貨も、今の物価に比べてみれば大変安い値段で売られていました。安いことは聖徒たちにとって祝福でしたが、それでもなおわずかなお金にもこと欠いて、必需品を買うことのできない人々が大勢いました。何百人という人がすべての財産を投げうって、ミズーリ州での迫害から逃れて来ていました。また新しく改宗した人々も皆貧しい状態にありました。そのような中で、彼らは店の資金を自分たちのためにまわしてくれる予言者のやさしさ、寛大さに触れることができました。次のような話があります。コネチカッ



予言者の自宅に近いウォーター通りとグレンジャー通りの交差点の角、南東に位置する予言者の店は、ノーヴー市民の集まる人気の場所となった。



ト州ウィルトン生まれの黒人改宗者ジョン・エリザバス・マニングは、1843年の晩秋、母親のエライザと4人の兄弟、義理の兄と姉、そして自分のまだ小さな息子シルバスターを連れてノーヴーにやって来ました。彼らは、1,000キロ以上もの道を歩いてやって来たのです。「私たちはやぶの中や家畜小屋、外で寝ました。そして霜が雪のように降りる頃まで旅を続け、その霜の上を歩いてやって来ました……私はジョセフ兄弟の所へ行きたかったのです。」

ノーヴーに着いた彼らに、予言者と妻のエマは、住む家が見つかるまでと、マンションハウスを提供してくれました。

「私がノーヴーに着いたとき、持っていたものはふたつだけでした。くつやくつは途中でみなすり切れてしまったのです。

私はきれいな洋服を一杯詰めたトランクを船便で送っていたので、ノーヴーに着いたらすぐ着れると思っていました。ところがそれはみな、セントルイスで盗まれてしまっていました。着るものが1枚もなくなっていたのです。……ある朝、私は階段の踊り場の所で、服が一着もないのを見て泣いていました。そこへ入って来た予言者はあたりを見回し……エマ姉妹に言いました。『店へ行って彼女に洋服を持って来ておあげなさい。』エマ姉妹はそのようにしてくれました。』（「予言者ジョセフ・スミス」若い女性の日記より、1905年12月、pp.551-52）

ミズーリ州の暴徒から逃れてきたジェームズ・ヘンリー・ロリンズは、家族と一緒にノーヴーに移住し、予言者の助けを求め

人々は店の資金を自分たちのためにまわしてくれる予  
言者のやさしさ、寛大さに触れることができました。

ました。「私は予言者のあとについて店まで  
行きました。予言者は、ニーエル・K・ホ  
イットニー氏に、私にやれる仕事がないか  
聞いてくれました。ところが、そこでは手  
が余っていてやることがないという返事  
でした。ジョセフ兄弟は私の方を向いて言  
いました。「君にやってもらいたいことがある  
んだが……」そう言って予言者は私を店の  
裏に連れて行き、ヒッコリーの木の束を見  
せました。そして私に、おのが使えるかと  
聞きました。「ええ、少しなら」と私は笑い  
ながらそう答えました。予言者が言うには、  
そこの店員たちは怠け者で、自分たちの使  
うとき木さえも切ろうとしないと言うので  
す。私は予言者に、よく切れるおのがある  
かどうか尋ねました。すると予言者はロー  
リン・ウォーカーの方を向いて言いました。  
『この木を切ってもらうから、彼におのを  
持って来てあげなさい。』私はその日のうち  
に木を切り終え、束にしてしまいました。  
翌日、予言者が店にやって来て、外の貯蔵  
室のドアの鍵をはずしました。ドアが開く  
と、予言者は私に在庫品の整理ができるか  
どうか尋ねました。私はとにかくやってみ  
ましょうと答えました。

私が貯蔵室の中をきれいに片づけたの  
を見て、予言者は喜んでくれました。

その頃、神殿の建物の方も大方できあが

り、職人たちはその店で自分たちの働きに  
対する報酬を受けていました。

2、3日の間、店は非常に混雑しました。  
私が会計室の入口に立っていると、私の親  
しくしている人々が店に入って来るのが見  
えました。彼らは報酬として、注文の品物  
を受け取る番を待ちながら私の所へやって  
来て、自分たちの注文の品を私に扱って  
もらえないものかと尋ねました。ちょうど  
店にいたジョセフ兄弟が私に言いました。「こ  
の人たちのために、働いてみてはどうか  
ね。」私は予言者からそう言いつけてもら  
えるなら喜んでしまおうと答えました。す  
ると予言者は私に『彼らのために働きな  
さい』と言ってくれました。私はカウンタ  
ーの後ろに行き、店員として働きながらそ  
の日もそして次の日もたくさんの注文品を  
取り扱いました。店は四六時中混雑し、朝  
から晩まで少なくとも50人から100人は  
列を作って待っているといた状態が続き  
ました。そのあまりの混雑ぶりに私たちは  
すっかりまいってしまいました。

店に入って来たジョセフは、私たちの焦  
悴こきった様子を見ると、店を閉めるよう  
指示し、2、3日は店を開けないようにと  
言いました。私たちは疲れが取れるまで、  
言われた通りにしました。そののち再び店  
を開け、仕事にとりかかりました。」

店の方とは言えば、利益はあまり上がっていませんでした。それは、ジョセフが多くの人々に貸し付けをし、困っている人々に自由に品物を分け与えていたからです。

(「ジェームズ・ヘンリー・ロリンズの生涯の点描」教会記録保管庫蔵)

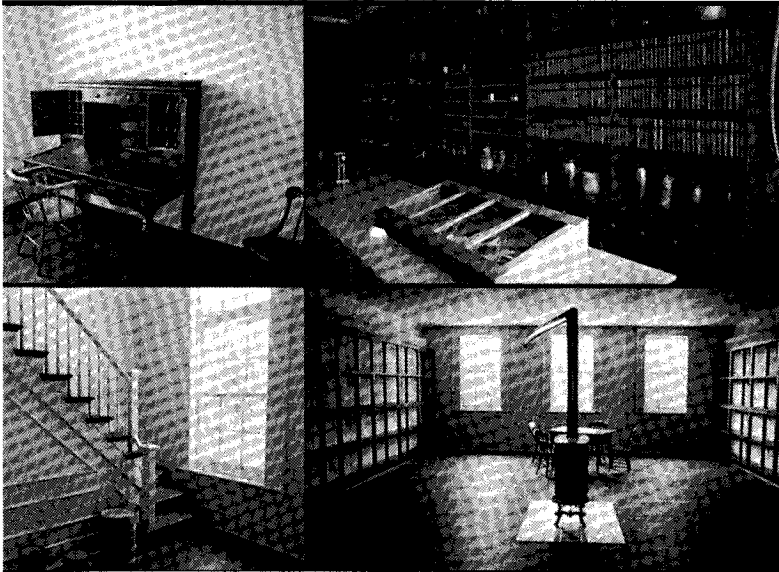
予言者の自宅に近いウォーター通りとグリーンジャー通りの交差点の角、南東に位置する予言者の店は、ノーヴー市民の集まる人気の場所となりました。また教会の指導者や市の指導者たちは、ここで重要な仕事の指揮にあたっていました。また聖徒たちは、ここで食料品や衣類、備品を購入するだけでなく、タイムズ・アンド・シーズンズへの寄付金や、神殿、ノーヴーハウスの建築資金を払ったり、教会の委託管財人であるジョセフ・スミスから市の土地を購入したりしていました。

指導者たちはよくこの2階に集まり、大管長会やステーク部高等評議員会、ノーヴー市議会、ノーヴー市在郷軍人団会、ノーヴーハウス、ノーヴー神殿委員会を開きました。また市民は、ここでコンサートや講演会、劇なども楽しんでいました。

ジョセフは、教師たちに2階の大部屋を開放し、クラスの指導にあたらせました。ところが何人か騒がしい生徒がいて、下で教会歴史を書いている書記たちをよく困らせました。予言者の息子のひとり、ジョセフ・スミス3世は、そのときのことを思い起こして次のように書いています。「小学生だった私たちには、どうしてもウィラー

ド・リチャーズ博士を忘れられない理由がありました。騒がしい教室から階段を降りていくと、リチャーズ博士がいて、相当迷惑そうにしていました。私たちは2、3度、階段を降りた所で彼につかまり、もっと静かにするよう注意を受けことがあります。確かに、上でどしんどしん音をたてたり、物をぶつけたり、階段にどっと押し寄せたり、ドアを開けて走り抜けたり……騒がしくしていたのです。彼は特に年長の子供をしかりつけていました。そのうち私たちは、迷惑をかけるよりは、静かに歩いた方がよいと思うようになったのです。」(メアリー・オーデンシア・スミス・アンダーソンとバーサ・オーデンシア・アンダーソン・ハルムズ著「ジョセフ・スミス3世と回復」p.28)

1843年11月7日、ジョセフは次のように記しています。「(ジョセフ・M) コール氏がテーブルをホールの後ろへ移動していると、歴史を書いていた(ウィラード)リチャーズと(ウィリアム・W)フェルプスの方から、教室の騒音がひどくて仕事ができないという苦情がきた。そこで私は、歴史を書く邪魔になってはいけないと思い、コール氏に別の適当な場所を捜すよう命じた。私が最も頼りにしていた書記が亡くなったり、背教した者がいたために、歴史を書くことは大変な仕事になっていたの



店の内部（右上）、  
1842年の扶助協会の  
設立などの集会に使  
用された2階の大部  
屋（右下）、ジョセ  
フ・スミスが啓示を  
受けたり、聖典の出  
版の準備をした個人  
の事務室（左上）

ある。私にとっては、歴史がきちんと書か  
れているかどうか、一番大きな関心事に  
なっていた。」（「教会歴史」6：66）

その赤レンガの店の中では、歴史的な出  
来事がいくつか起こりました。1842年3月  
17日、2階の集会室に集まった姉妹たちの  
立ち会いのもと、ジョセフ・スミスは「ノー  
ブーの婦人のための扶助協会」を設立しま  
した。ジョセフはその直後の集会で、この  
組織は「貧しい人々や未亡人、孤児たちを  
助けるために、またあらゆる慈悲を目的と  
した行ないをするために」とあると語って  
います。（「教会歴史」4：567）

1842年5月4、5日の2日間にわたり、  
2階の部屋で開かれた神聖な会には、9人  
の男性が集まり、予言者から神殿のエン  
ドウメントを受けました。ブリガム・ヤン  
グを含むこの兄弟たちは、予言者が暗殺され

たあと、ノーブー神殿でこの神聖な業を  
とり行なうことになりました。

ジョセフは、結局この店の経営をほかの  
人に任せることになりました。というのは、  
1842年の初めに、彼はノーブーの市長、治  
安判事、登記官の仕事を引き受けること  
になったからです。店の方とは言えば、利益  
はあまり上がっていませんでした。それは、  
ジョセフが多くの人々に貸し付けをし、  
困っている人々に自由に品物を分け与え  
ていたからです。しかし、彼にとっては収入  
が減ることよりも、そのために人々の生活  
が良くなることの方がずっと大切だったの  
です。開店した当時、ジョセフはこのよ  
うに書いています。「私は聖徒たちのために役  
立ちたい。主のみこころにかなうときに昇  
栄できることを望みながら、すべての人々  
に尽くしたい。」（「教会歴史」4：492）

# あらゆる良き賜

□バートン・D・ヘイルズ

子供の頃、私の家はニューヨーク市内から50キロほど離れたロング・アイランドというところにありました。そこは木々の多い自然に恵まれた美しいところでした。生け垣に囲まれた広い敷地には、石庭や魚のいる池、菜園などがあり、芝生が敷きつめられ、木々が生い茂っていました。それはどれも手入れを必要とするものばかりで、夏には芝刈り、秋には落ち葉掃きと、いつも仕事が続いていました。そうした庭の手入れで、私たちはかなりきつい仕事をしたつもりでしたが、少年時代をアイダホ州バートンのてんさい畑で過ごした父に言わせれば、まるで何もしていないようなものでした。

ある日、父が私にこう言いました。「農場でフランクおじさんの手伝いでもしてみなけりゃ、働くということがどんなものか、お前にはわからんだろうな。」そこで私は、ひと夏をユタ州トゥエラに近いスカルバレーで過ごし、働くとはどういうことかを学ぶことにしたのです。

私の家のある緑の多いロング・アイランドとは違って、乾燥していて荒涼とした砂漠のスカルバレーは、私には信じられないような場所でした。ヨーロッパや合衆国東

部から移ってきた開拓者たちは、ここに着いたとき「まさにこの地である」と言われたのです。そのときの彼らの気持ちがどんなであったか、私には手にとるようにわかりました。

大都市周辺で生活してきた私にとって、農場での生活は大変すばらしい勉強になりました。家畜や馬を見ては感動し、収穫にいたるまでの仕事の大変さにすっかり圧倒されてしまいました。豊作を期待するには、それまでに大変な準備が必要であることを初めて知ったときの気持ちは、今でもはっきり覚えています。畑を耕し、すき、ならし、植えつけをする。土寄せをし、雑草を取る。水はけをよくし、また土寄せをし、雑草を取る……と私には仕事が続くように見えました。その夏は私にとってすばらしい教訓の夏となりました。教訓と言うより大切な財産と言った方がいいかもしれせん。なぜなら、私はそのような荒涼とした世界の遠隔地で、収穫の律法という大切な律法を学ぶことになったからです。

収穫の律法というのは、何もしないところからは何も得られないという単純なものです。聖典では、収穫の律法を、「まいたものを刈りとることになる」という言葉で教



えています。「まちがってはいけない、神は  
あなた侮られるようなかたではない。人は自分の  
まいたものを刈り取ることになる。」(ガラ  
テヤ6：7)

それ以来、私は人生の悩みに対する独創  
的な解決法を見つけるには、この収穫の律  
法に従うことだと悟ったのです。私たちの

創造主は、私たちに  
創造性という賜や才  
能を伸ばすことを望  
まれ、励ましを与え  
ておられます。



知らないところで、たくさん働きがなされているのです。私たちが店に行き目にするのは、農家や酪農家が生産した結果だけ、すなわち新鮮な野菜や果物、酪農品が並んでいるところだけです。しかし、それらを生産するまでの仕事にたずさわって見なければ、これらの完成品に一体どれだけの時間がかかるか、時には心を痛め、不安のつきまとういかに大変な仕事であるかを知ることはできません。ピアノの演奏や歌を聞いたり、人の書いた本を読んだり、美しい絵を見るときにもこれと同じことが言えます。

多くの人々は「創造性」という言葉は、単に文化や演奏、芸術といった事柄にのみあてはまるものと思っているようですが、それは偏見というものです。論理的に考えてみても、「創造性」という言葉は限りなく、実に多方面にわたって使えるものなのです。

この世の創り主イエス・キリストは、私たちに創造性について力強い可能性を示してくださいました。私たちの周りにいる人、動物、草花、植物、昆虫、どれをとってみてもふたつとして同じものはありません。地球にも季節があり、熱帯のジャングルや大洋、湖、山、谷、森、平野、台地などがあって、私たちに限りない創造性を示してくれています。

創造主は、私たちに創造性という賜や才能を伸ばすことを望まれ、励ましを与えておられます。教義と聖約の46章にはこのように記されています。「汝ら……熱心に最善の賜を求めよ。而して常に何の爲に与えらるる賜なるかを憶ゆべし。……」

すべての者、必ずしもあらゆる賜を与えられしにあらざ。何となれば、賜は多くあ

れどすべての人は神の『みたま』によりてその一を受ければなり。

ある者はある賜をたまわり、また他の者には別の賜をたまわり、かくしてすべての者これによりて益を得るなり。

すべて皆これらの賜は、神より来りて神の子たちを益するなり。」(教義と聖約46:8, 11-12, 26)

この聖句は、最良の賜を熱心に求めるのは正しい理由からであれば決して悪いことではないと教えているのです。

しかし、立派な才能を持っていながら利己的なために、その賜を人のために使おうとしない人が多すぎます。というより、彼らはその賜が神から与えられたものであることを認めようとしません。自分の創造性に関する才能がどこから与えられるのかを正しく理解していれば、サタンの目的にかなうような書物を読んだり、踊りをしたり、音楽を聞いたりするようなことはしないはずで。予言者モロナイは、悪事のために才能を使うことについて、次のように勧告し、戒めています。「あなたたちはキリストの御許へ来て一切の善い賜物をつかめ。悪いたまものまたは汚れたものにかかわってはならない。」(モロナイ10:30)しかしながら、私たちは試しを受けるためにこの世に来ています。ですから当然自由意志を使って善と悪を選ぶことができるわけです。

教義と聖約52章14節から19節には、私たちが創造性という賜を正しい目的のために使えるよう、指示が与えられています。その中で私たちは、識別の賜または規範というのは、悔いる精神をもって祈り、儀式や戒めに従うことによって、また悔いる精神をもって語り、しかもその言葉が柔和なと

収穫の律法というのは、何も  
ないところからは何も得られ  
ないという単純なものです。



きに与えられると教えられています。さらに、争いがなく、主のみ力を謙遜な気持ちで受け入れ、賛美と知恵の実を結ぶときに与えられるのです。

46章10節には、「憶<sup>おぼ</sup>えんこと」と出ていますが、それはすなわち学び研究する能力、勤勉さや賜、才能を伸ばしていく能力のことを指しています。私たちには、自分自身にみがきをかける責任があります。

あるとき私の友人が「ピアノが弾けるか」と尋ねられて、「まだやってみたことがないから、わからない」と答えたのです。何とすばらしい教訓でしょうか。私たちには試されるのを待っている、隠れた才能が実にたくさんあるのです。

しかし、創造性という才能を伸ばすことは、決して楽な仕事ではありません。そのことを忘れないでください。私はよく「すべての者、必ずしもあらゆる賜を与えられしにあらす」（教義と聖約46：11）と言って、自分の才能のなさを正当化してしまうことがあります。たとえば、翻訳者や通訳者と一緒に仕事をしているときなど、つい「異言<sup>いげん</sup>を語る賜があつていいですね」などと言ってしまいます。

あるとき、そのような言葉に次のような返事が返ってきたことがありました。「私の異言を語る賜は、何千時間もの勉強と、幾度も失敗や挫折感を克服したあとに与えられたものです。」

前にも言いましたが、創造性というのは文化や芸術に限ったものではありません。それだけでは、非常に限られたものになってしまう。私たちには日々活動している中で、独創的な作品を生み出す力が与えられているのです。私たちは、創造性を働かせて、問題への新しいアプローチの方法

を身につけることにより、日常のいろいろな問題に対する解決策を見つけていくことができます。私は今まで、マーケティングやセールス、広告業、新製品の開発などにたずさわりながら、そのような創造性を数多く目にしてきました。

大学院を修了したばかりの私は、新しい雇い主から市場調査部の仕事を言いつけられたのです。私たちがそこで取り組んだのは、旧型の製品によく似た新製品をいかに早く識別するかということでした。新旧の区別がはっきりしていないと、市場での新型製品の売れ行きや様子を的確に調査することはできないのです。現場の検査員たちは、訓練は受けてきているものの、かなり戸惑っていました。簡単な区別の方法はないようにさえ思えました。

そんな折、私は新参分析者としてある会合に招待され、この問題の解決策について話し合うことになりました。この問題が解決できないために、何万ドルもの費用がかかっていました。そこではいろいろなアイデアが出されていました。ところが、会合の最中、私の結婚指輪が指からすり抜けて転がり、新製品の取っ手のところで止まったのです。そしてそこで、旧式の標準型の取っ手は、かろうじて私の指輪に納まるが、調節可能な新型の取っ手にははまらないことがわかったのです。私はそれをヒントにし、検査員が正しく判断できるように、いろいろな大きさの穴を開けたカードを作ることになりました。市場調査を担当している人々は、この簡単な解決方法を提供してくれたカードを、今なお「ヘイルズのホールカード」と呼んでいます。

私がマサチューセッツ州ボストンのケンブリッジワード部で、長老定員会の会長を

していたときのことでした。その近辺の大学に入るためにやってくる末日聖徒の学生たちの姿が、到着して数日間のうちに見えなくなってしまうのです。そのうち何人かは、会員としてあまり活発でなく、会員たちと強いつながりを持っていないような人たちでした。そこで、私たちはプロジェクト48という計画を考え出したのです。それは、私たちの長老定員会の会員となる転入学生に、定員会の会員と到着後48時間を一緒に過ごす機会を提供するというものでした。そして、定員会の会員は、転入者が新居を捜すのを手伝うことにしたのです。(私たちの手元には、手頃なアパートのリストがありました)そして定員会の会員たちは、来たばかりの学生たちに友情と兄弟愛を示し、彼らが身の回りのことに困らないようにしてあげました。

こうして、私たちは大勢の転入者に定員会との絆を強めさせ、新しい環境に移ってきたばかりの学生たちを、最初の数日間に見失ってしまうようなことをなくしたのです。このプロジェクト48は、それから25年たった今なお健在で、ボストン地域の学生に歓迎のプログラムとして貢献しています。

地元の状況に合わせるには、場合によって独自のアプローチが必要になることがあります。私たちには一般的なガイドラインや原則が与えられていますが、主は、私たちが自由に自分の問題を解決するよう望んでおられるのです。モルモン経にはジェレドの兄弟の模範的な話が載っていますが、それは、自分の問題は主の導きを得て自分で解決するよう主がいかに望んでおられるかを示しています。

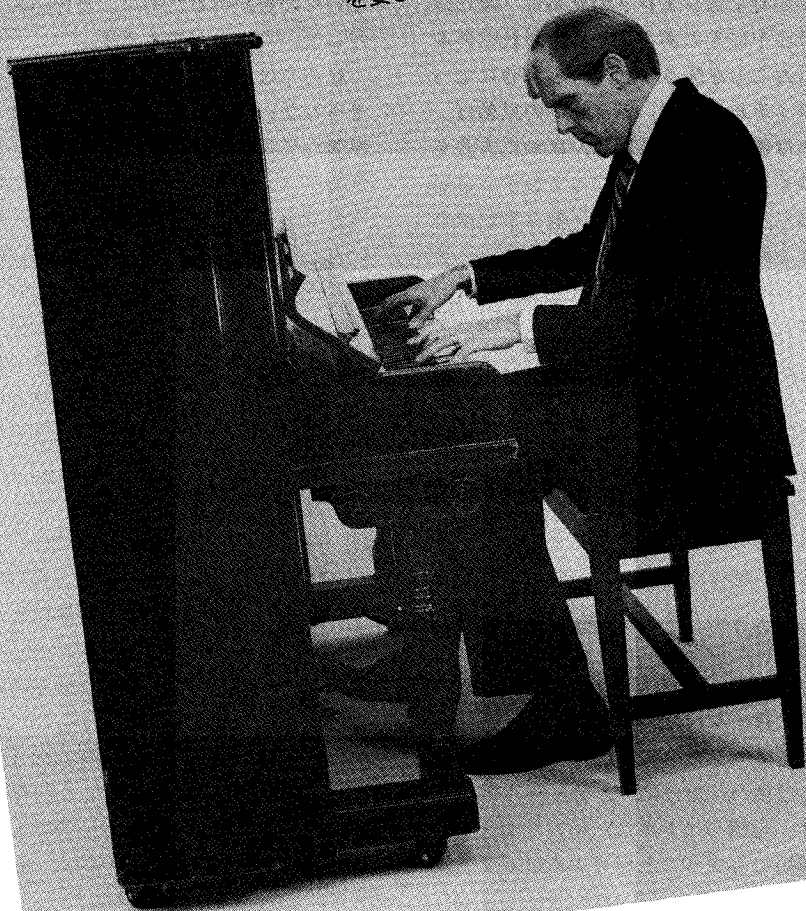
ジェレドの兄弟は、すでに主の指示通り

に船を作っていました。しかし、その船には航行するためのスクリューなどは何もついていませんでした。また船内には、生きていくために必要な空気を取り入れる方法もなく、明かりもありませんでした。そこでジェレドの兄弟は祈り、スクリューや航行の仕方についての答えを受けたのです。主は、風や波を使ってジェレドの民を約束

の地に連れて行くと言われました。(イテル 2:24-25参照)しかし、空気や明かりはどうだったのでしょうか。

ジェレドの兄弟は、それぞれの船の上と底に穴を開け、そこにせんをするように言われました。そして主は、空気が必要なと

私たちがピアノの演奏を聞くとき、その曲を完成させるためにどれほどの時間と労力を要したかを知ることはできません。



きにはその穴を開けるようにと言われたのです。穴を開けて水が入ってくるようならすぐにせんをするようにと、主はややユーモアをもって、ジェレドの兄弟に指示されたのではないのでしょうか。(イテル2：20参照)

しかしなお、船内に明かりを取り入れるという問題が残っていました。「主よ、汝はわれらにこの大海を暗やみの中にて渡らせたもうべきか。」(イテル2：22) 私たちも折りの中で、同じ悩みをただくり返し言っているだけのときがよくあるようです。「するとこの時主はジェレドの兄弟に『汝らはその舟の中に光のあらんため、われに何をせられんことを願うか。』……と仰せになった。」(イテル2：23) ジェレドの兄弟は、窓や火は使えないと言われ、ほかに方法を考えつくことができなくなってしまいました。私たちも人生において、悩みや問題を解決するのに、方法に限られてしまい、どうしようもなくなってしまうことがよくあります。

ジェレドの兄弟は、16の透明な石を持ってきて、それを主に触ってもらうことによって、問題を解決しました。「この石に主の指を触れて暗やみの中にて光を出し石となしたまえ。……そは……光を出し海を渡る間われらの所を照す。」(イテル3：4) 主からその石に光をもらい、彼らは無事に航海することができました。明かりを取り入れる方法としては、きつともっと別の良い方法があったに違いありません。以前我が家の家庭の夕べで、息子が、ジェレドの兄弟は主にペンキの入った缶にでも触ってもらえば良かったのに、と言ったことがあります。光輝くペンキは、船のインテリアの塗装用にも使うことができますはずです。

しかしジェレドの兄弟は、石を使うことに決め、そして主はその解決方法を受け入れてくださったのです。

私たちは物事を論理的に考えることのできる人間です。自分が必要としているものを見きわめ、計画や目標を立て、問題を解決する力が与えられています。創造性豊かな人々は、障害を克服する解決方法として、そのような特質を生かすことができるはずです。そして自分に立ち向かってくるものを、独自の方法を用いて克服することができます。またほかの人々が困難な状況を打開していくのを助けるために、その方法を見いだしていくことができます。

私たちは、人生にとってあまり役に立ちそうもないアイデアや発明、アプローチに執着してしまうことが多すぎます。創造性あるアプローチというのは、人生の中でどうしても必要なものを満たしていく練りあげられた方法のことを言うのです。創造的な考えというのは、教育や戒めを守ること、正直などに取って替わるものではありませんし、人生のチャレンジに対処する近道でもありません。創造的な考えというのは、私たちに解決への糸口を見つけさせてくれる一種の靈感なのです。

創造性ある人間になるには、たえず好奇心を持っていなければなりません。常に新しいアイデアに目を向け、耳を傾けるのです。また時には、ほかの人の解決法の方が良いと認めることも必要です。そしてまた、自他を問わず、これまでの経験から、教訓を得るように努めるべきです。

創造的な考えを身につける過程を見ていると、私にはおじの農場でした仕事のこと  
が思い出されてくるのです。作物を大きく育てるために踏むステップは、私たちに



とってすばらしいガイドラインとなるものです。

畑を耕す。思いを清くするために、祈りで始め、環境をふさわしく整えてください。そして問題や悩みを十分に検討し、必ず解決方法が見つかるという積極的な態度を養ってください。自分自身やほかの人々を信頼できるような雰囲気を作ってください。

種をまく。自分にできることは何かを考え、どこに助けが必要かを決めてください。しかし、この段階ではまだ助言を求めるべきではありません。あなたの方に、助言を受ける備えができていないからです。もちろんほかの人に、あなたの代わりに決めてもらうようなこともしないでください。教義と聖約9章7節の言葉を思い起こしましょう。「見よ、<sup>なんじ</sup>汝はまだ悟らず。汝はひたすらわれに願ひし時はこれを与えらるるならんと思えり。」

芽を出させる。これから大きくふくらんでいくかもしれないあなたのアイデアを、根こそぎ抜いてしまうようなことはしないでください。これは創造性を養うための一段階で、この段階では、積極的な不安のない態度が求められます。少し待ってみて、あなたのアイデアに、大きく育つチャンスを与えてあげてください。しかしその場合、たとえ失敗しても再び積極的に挑戦してみるだけの気持ちを持っていなければなりません。

作物のでき具合を見る。ふさわしくない考えはとり除いてください。主に従うことにより、あなたは靈感を受ける資格が得られます。教義と聖約9章7節から9節までの言葉をかみしめてみてください。私たちの決断が正しいかどうかを尋ねるとき、靈感が与えられるのです。「これによりて汝に

その正しきを感じしむ。」(教義と聖約9：8) あなたの偉大な力は、戒めを守ることによってもたらされることを忘れないでください。

収穫する。世界一の生産力を持つ農夫でも、作物を収穫しなければ何もなりません。あなたのアイデアについて、何らかの行動を起こしてください。率先して、あなたの考えを人々に知らせ、あなた自身も行動を起こすのです。

モーツァルトという作曲家は、どのようにして創造性を養っていったか、その過程を次のように語っています。「私は、自分をうれくさせるような考えをよく覚えておくようにしています。……それが私に靈感を与えてくれるのです。そして心が安らいでいれば、私のテーマはどんどん広がり、形作られ、どんなに長くとも、曲として心の中にできあがるのです。まるですばらしい絵や美しい彫像を見るように、ひと目で全体を見渡すことができるのです。」(ブルースター・ギゼリン「創造の過程」p.44)

モーツァルトも言っているように、日常の問題を解決する際に踏むステップは、本を書いたり、絵を描いたり、写真や音楽を扱うときにもあてはまるということです。収穫に至るまでには、人知れぬ大きな働きがなされているのです。私たちは熱心な働きと神の靈感によって、今までにないすばらしい傑作を手にすることができるに違いありません。悩みや問題を解決するときには、まず自分のできることをすべて成し遂げ、それから主に確認を願い、自分が正しい決断をしたのだという安らかな確信を得るようにしたいものです。そのようにすれば、私たちはたくさんのもを収穫することができるのです。

「あのおじいさんは、へんだね。」ナサンは、6さいのおとうと  
のボブにいました。ナサンとボブは、どろんこ道を歩いて、  
家に帰るところでした。

「どのおじいさんさ？」ボブはどろがいつぱいついたくつをふみ  
ながら、顔もあげずにたずねました。ほろ馬車の通る道は、12  
月の雨でグチャグチャでした。

「ほら、6カ月前にひっこしてきた人、ジョサイヤ・ポッツさんだ  
よ。クリスマスまであと3しゅう間  
もないっていうのに、にが虫をかみ  
つぶしたような顔をしているんだ  
よ。」

ポッツさんの家は、道のすぐわきの、ミズキのしげみの中にあ  
りました。ナサンは、小さなにわをとりか  
こんでいる、たおれそうなへいによ  
りかかりました。ちょうどそのとき、



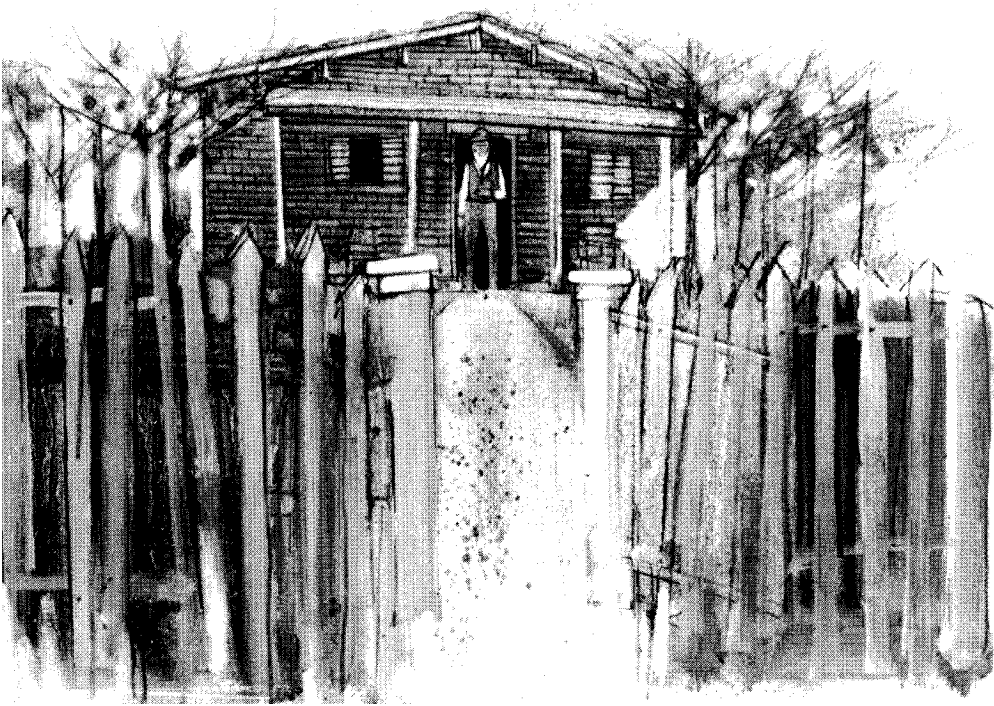
# プレゼント

お話：レイ・ゴールドラップ

かみなりが<sup>な</sup>鳴りひびき、いな<sup>びかり</sup>光がしました。まるでナサンのお父<sup>とう</sup>さんをうばいとった、あのせんそうのようでした。

つめたい<sup>かぜ</sup>風がふきつけました。ボブはこらえきれないようすで、目<sup>め</sup>をほそくして、12さいのナサンを見<sup>み</sup>ながらいいました。「気にし<sup>き</sup>ない、気にし<sup>き</sup>ない。ポッツさんはちよつと<sup>き</sup>気むずかしいだけだよ。」ナサンはうなずきました<sup>が</sup>、それでもポッツさん<sup>いえ</sup>の家<sup>み</sup>をじつと見ていました。「ポッツさんも、<sup>なんぼく</sup>南北せんそうでだれかをなくしたのかも<sup>し</sup>れないよ。たぶん、だから……」

そのとき、ポッツさん<sup>いえ</sup>が家<sup>で</sup>から出てきたので、ナサンはハツとして話<sup>はな</sup>すのをやめました。ポッツさん<sup>なが</sup>の長い<sup>なが</sup>ううれいのようなあごひげは、<sup>つよ</sup>強い<sup>かぜ</sup>風でふきとばされそうでした。それにおちくぼんだ<sup>め</sup>目は、そのときの空<sup>そら</sup>のようにくらく、ふきつでした。ナサンはへいからとつぜん<sup>からだ</sup>体をおこしました。そのとき、そで<sup>からだ</sup>がくさつたへいにひつかり、それをグイとひっぱつたので、へいがグラグラになってしま

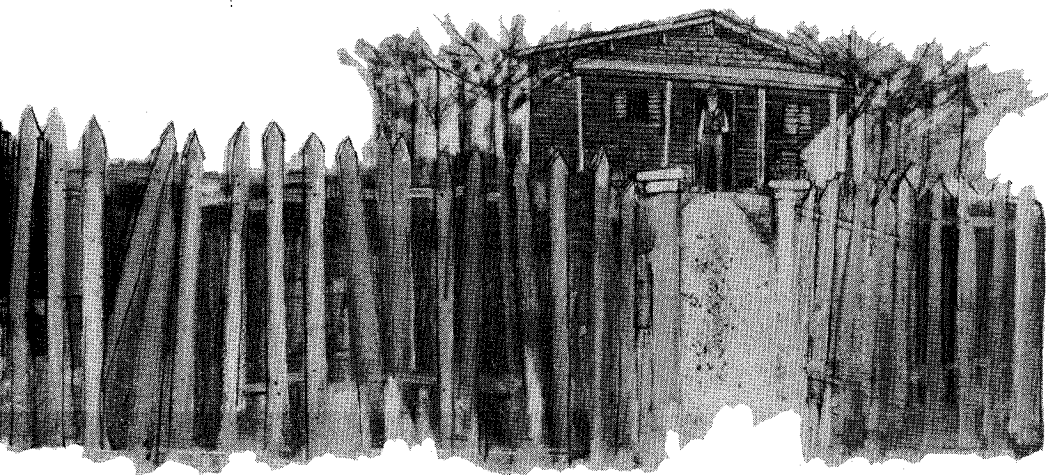


いました。

ポッツさんは大きな声おおこえでいいました。「今いま、何なにを見ていたんだ。」ナサンは、グツとつばをのみこみました。「べつに、やくにもたたないものです。」

「いつから、わしがやくにもたたなくなったのかね。」

「ぼく、そんなしつれいなこといいませんよ。」



「それじゃあ、うちのへいからはなれてくれ。」ポッツさんはうなるような声こえでいいました。「せんそうなんで何もかもなくして、そのうえ、へいまでこわされちゃたまらんよ。」

ナサンはこうきかずにはいられませんでした。「家いえのほかにも、何なにかなくしたんですか。もしかしたら、家かぞくをなくしたんですか。」

ポッツさんは、はい色いろのまゆをしかめました。まゆの下したには、つかれきった目めがのぞいていました。「お前まえの知しったことじゃないが、つまこと子どもをなくしたんだよ。」

ナサンはそわそわしながらいいました。「弟おとうとととぼくは、せんそうでお父とうさんをなくしたんです。」

「ぬれないうちに、家に帰ったほうがいいよ。いつぶってくるかわからないから。ぬれたら、たいへんだよ。」

ナサンは、ポッツさんの気もちがわかるような気がしました。ナサンは考えました「ポッツさんは、ぼくたちが知っていることを知らないんだ。家ぞくがえいえんにつづくことや、それから……いろんなことを知らないんだ。」

「何をぐずぐずしているんだ。」ナサンはポッツさんの声に、はっとわれにかえりました。

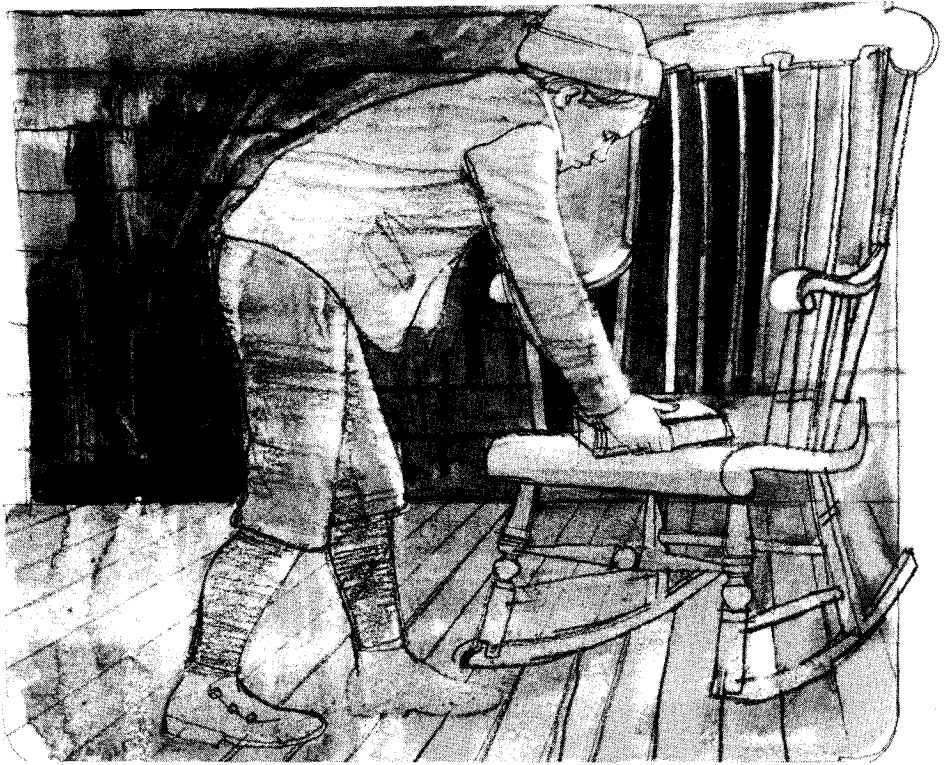
ナサンは家に木をはこんでいきました。そして、このつぎのせんたくの日のための水をためるために、のき下からたるを外にひっぱり出すと、いそいで家の中に入りました。そして、こわきに何かをかかえて、外にとび出そうとすると、お田さんにとめられました。「そんなにいそいで、どこに行くの。」

「ぼく、ポッツさんにプレゼントをあげたいんだ。」ナサンは、うでの下から小さなすりきれたせいしよを出しました。

「あなたのせいしよじゃないの。どうして、それをポッツさんにあげたいの。」

ナサンは、せつめいしました。「ぼく、2回も読んだし、きっと、ポッツさんのやくに立つと思うんだ。それに、ぼくにはお父さんがくれたモルモン経があるしね。ほら、せんそうの前、でんどうから帰ってきたときにくれたやつさ。」ナサンは、せいしよを見ながらいきました。「これには、ポッツさんに読んでもらいたいことが書いてあるんだ。ぼく、そこにしるしをつけておいたんだよ。」

ボブはいいました。「ポッツさんは、きっとすてちゃうよ。」ナサンは、ためいきをついていいました。「かもしれないね。でも、そうすれば、ぼくの気もちがすむんだ。プレゼントするものがあれば、ポッツさんの家に行けるし、せめてなぐさめたいと思っていたことだけ



はな  
は話せるもん。」

お田さんは、長いことナサンを見ていました。お田さんは自にな  
みだをうかべていいました。「だんだんお父さんににてくるわね、あ  
なたは。お父さんはいなくなってしまうけど、ここにはもうひとり  
り、お父さんと同じようにすばらしい、モルモンのせんきょうしが  
いるわ。」

ナサンはポッツさんのいえに行つて、ちよつと立ちどまり、『さあ行  
くんだ』と自分にいいかせました。ナサンはドアをたたこうとし  
ましたが、ふとせいしよのなかになにかことばを書こうと思いつきまし  
た。書きおわると、ナサンはげんかんのところのいすにせいしよを  
おいて、にげるようにして家に帰りました。

ふつか後、ポッツさんの家の前を通りかかると、ナサンはポッツ  
さんによびとめられました。ポッツさんは、ドアのむこうに立って



いました。「おーい、どうしてわしにせいしよをくれたんだい。」ポッツさんは<sup>こた</sup>答えを<sup>き</sup>聞こうと、げんかんに<sup>で</sup>出てきました。ナサンは、しんこきゆうをしていいました。「もうすぐ……もうすぐクリスマスでしょ。それ、プレゼントです。」

ポッツさんは、じつとナサンを見ました。「なぜ、わしにプレゼントなんかしたいと思<sup>おも</sup>ったんだね。」

「やくに立<sup>た</sup>つと思<sup>おも</sup>ったんです。」ポッツさんはふしくれだったかた<sup>て</sup>い手で、かみの毛<sup>け</sup>をかきあげました。ボサボサのかみの毛<sup>け</sup>の下<sup>した</sup>から、ポッツさんはじつとこちらをにらんでいました。「『わたしをしんじるものは、たといしんでも<sup>い</sup>生きる。また、生きていて、わたしをしんじるものは、いつまでも<sup>い</sup>しなない』ってところにしるしがついていたが、あれは、しんだものたちが、どこかでわしらをまっているといういみかね。」

「そうです。」ナサンはうなずきました。

ポッツさんの目<sup>め</sup>からなみだがあふれました。「もしも、そうしんじられるなら、このよにあるものを何でもなげ出すよ。何でも。」

ナサンは心<sup>こころ</sup>の中<sup>なか</sup>がパツと<sup>あか</sup>明るくなるような<sup>き</sup>気がして、こういいました。「ポッツさん、こんどの日<sup>にち</sup>よう日<sup>び</sup>、1時間<sup>じかん</sup>ぐらい時間<sup>じかん</sup>がありませんか。ぼくたちと、……<sup>はは</sup>田と、ボブと、それからぼくと<sup>いっしょ</sup>に<sup>きょうかい</sup>教会<sup>い</sup>に行きませんか。」

「行<sup>い</sup>きたいと思<sup>おも</sup>うが、……よし、行<sup>い</sup>こう。」

しばらくあと、ナサンは<sup>かえ</sup>帰り<sup>みち</sup>道をいそぎました。雨<sup>あめ</sup>が<sup>だ</sup>ふり出<sup>だ</sup>しましたが、いつもとちがって、雨<sup>あめ</sup>が<sup>あたたかい</sup>あたたかいような<sup>き</sup>気がしました。

その年<sup>とし</sup>のクリスマスに、ポッツさんはニーファイ・コールかんとくから、コールドウォーター<sup>がわ</sup>川<sup>がわ</sup>でバプテスマをうけました。水<sup>みず</sup>からあがったポッツさんは、じつと天<sup>てん</sup>を見<sup>み</sup>あげていました。ナサンは、そんなポッツさんを見<sup>み</sup>たのははじめてでした。

# おさなご イエス

「聖典からの物語」より

す くい主がお生まれになって8  
日目のこと、マリヤとヨセフ  
は天使ガブリエルから命じられた通  
り、救い主をイエスと名づけました。  
それからしばらくして、ふたりはイ  
エスを神でんにつれていき、主のり  
っぱうに「山ばとひとつがい、また  
は、家ばとのひな2わ」と定められ  
ているのにしたがって、いけにえを  
ささげました。

神に仕えるシメオンは、せいれい  
の力によって、キリストを見るまで  
死ぬことはないと言われていま  
した。シメオンは、せいれいにみち  
びかれて神でんにやって来ると、お  
さな子をだいたマリヤとヨセフを見  
ました。シメオンはよろこびに満た  
されてふたりに歩みより、おさな子  
をうでにだいて、神をほめたたえま  
した。ついにシメオンは、救い主が  
おいでになったことを知ったのです。  
シメオンは、イエスがすべての国民  
にとってしゆく福になることを予言  
しました。それから、マリヤとヨセ  
フをしゆく福し、次にマリヤにむか  
ってこう言いました。「あなたは、こ  
のおさな子が人々からひどいあつか

いを受けるのを見、とても苦しむでしよう。」

その日は、年とった女子言者アンナも神でんに来ていました。アンナがおさな子を見ると、主のみたまがこうあかししました。「あなたがだいでいる、そのおさな子がやくそくの救い主ですよ。」アンナは、このすばらしいできごとを教えてくださいました。この知らせを主にかんしゃし、この知らせを待ち望んでいるすべての人々に、急いで知らせました。

ヨセフとマリヤは、おさな子イエスといっしょに家に帰ってきました。マリヤは、お母さんならだれでもするように、イエスの世話をしました。マリヤはイエスをとても愛していました。

その時代は、ヘロデ王が、パレスチナの人々とそのあたりの土地を治めていました。ヘロデはざんこくで、その上よくばりでした。ヘロデは王の位をだれにもゆずりたくなかったので、大ぜいの人を殺しました。

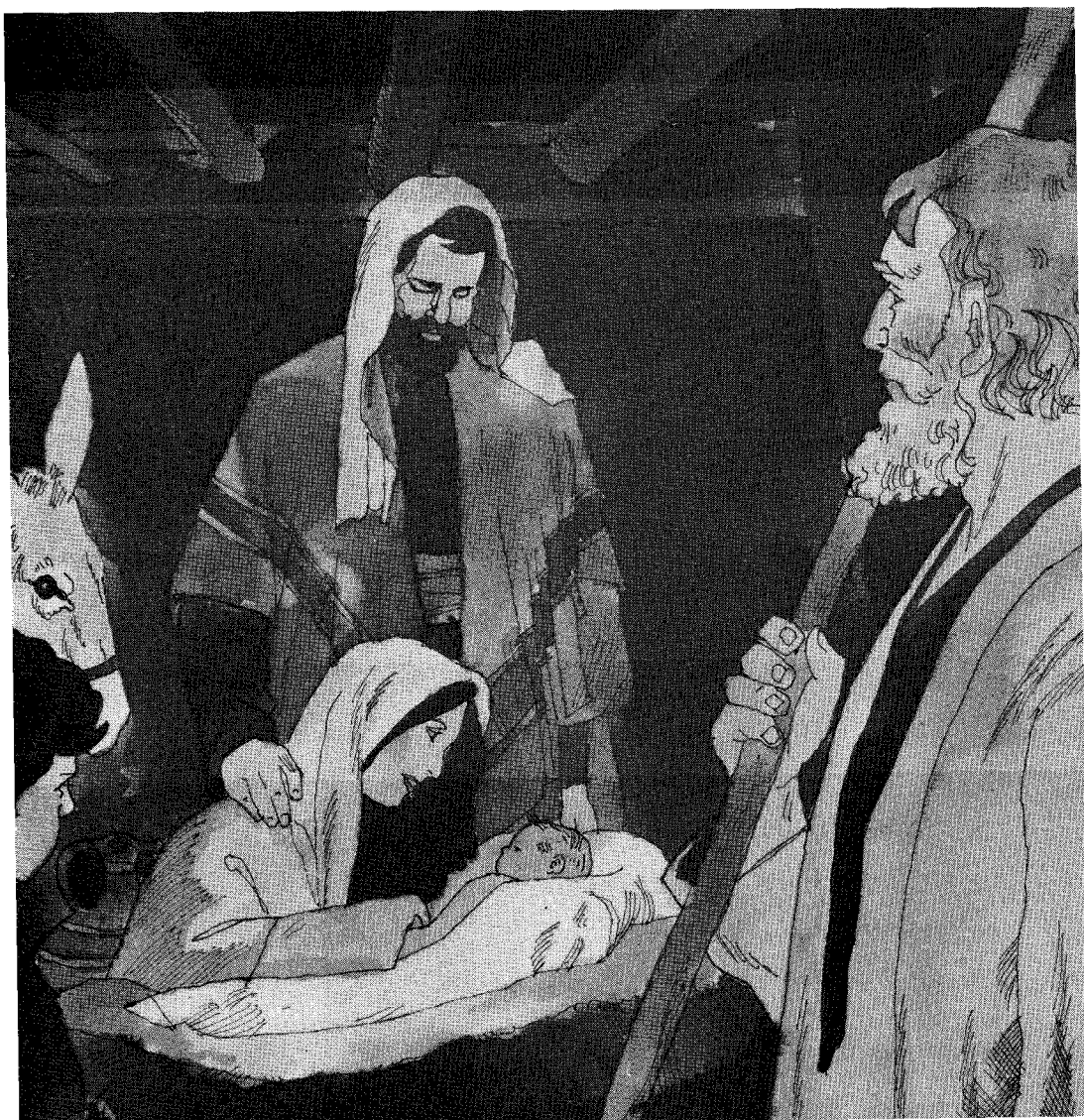
ある日、東の方から何人かのはかせたちが、天にあらわれた大きな新しい星にみちびかれて、エルサレム



にや<sup>き</sup>って来<sup>ま</sup>した。その星<sup>ほし</sup>がメシヤのたんじょうを告<sup>つ</sup>げていることを、はかせたちは知<sup>し</sup>っていました。「ユダヤの王<sup>おう</sup>としてお生まれにな<sup>う</sup>った方<sup>かた</sup>はどこにおられますか。」はかせたちはたずねました。「わたしたちは東<sup>ひがし</sup>の方

でその星<sup>ほし</sup>を見<sup>み</sup>たので、その方<sup>かた</sup>をおがみに来<sup>き</sup>ました。」

ヘロデはユダヤの新しい王<sup>あたら</sup>のこ<sup>おう</sup>のこ<sup>こと</sup>を聞<sup>き</sup>いて、不安<sup>ふあん</sup>になりました。そこでヘロデは国<sup>くに</sup>中の学<sup>がく</sup>者<sup>しや</sup>を集<sup>あつ</sup>め、やくそくのメシヤがどこで生<sup>う</sup>まれるのか



たずねました。学者たちは言いました。「ユダヤのベツレヘムです。予言者ミカが、そうしていますから。」

ヘロデ王はとてもざんこくで、しかも頭のよい人でした。ヘロデはメシヤがお生まれになるのを喜んでいようふりをして、はかせたちに言いました。「行って、そのおさな子<sup>こ</sup>のことをくわしくしらべ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしもおがみに行くから。」

はかせたちは星にみちびかれて、マリヤとヨセフとおさな子<sup>こ</sup>のいる家<sup>いえ</sup>にやって来ました。はかせたちはひれふしてイエスをおがみ、黄金と、もつやくと、にゆうこうをおくりました。

はかせたちは、ゆめの<sup>ゆめ</sup>中で神<sup>かみ</sup>から、ヘロデのところへは帰<sup>かえ</sup>るなと告げられ、べつ<sup>べつ</sup>の道<sup>みち</sup>を<sup>とお</sup>つて自分<sup>じぶん</sup>の国<sup>くに</sup>へ帰<sup>かえ</sup>っていきました。主<sup>しゅ</sup>はヨセフにも天使<sup>てんし</sup>をつかわして、きけんを知らせました。天使<sup>てんし</sup>はヨセフに言いました。「マリヤとイエスをつれて、エジプト<sup>い</sup>に行きなさい。帰<sup>かえ</sup>ってもよい時<sup>とき</sup>が来た<sup>き</sup>ら知らせましょう。」ヨセフはすぐ

に、夜<sup>よる</sup>のうちにマリヤとイエスをつれて旅<sup>たび</sup>立ちました。

ヘロデは、はかせたちがほうこくに来<sup>こ</sup>ずに、立ち去<sup>さ</sup>ったことに気づきました。ヘロデは、ユダヤ人の王<sup>じんおう</sup>が生まれたというわさに、いかりをつのらせました。ついにヘロデのねたみはふくれあがり、國中<sup>くにちゆう</sup>の2さい以下の<sup>いか</sup>子供<sup>こども</sup>を皆殺<sup>みなころ</sup>しにするように、という命令<sup>めいれい</sup>を出<sup>だ</sup>しました。

ヘロデのさくりやくのために、國中<sup>くにちゆう</sup>の人<sup>ひと</sup>々がなげきかなしみました。しかしそれでも、ユダヤ人の王<sup>じんおう</sup>を殺<sup>ころ</sup>すことはできませんでした。ヘロデが死<sup>し</sup>んでしまうと、主<sup>しゅ</sup>の使<sup>つか</sup>いがヨセフにあらわれて、マリヤとイエスをつれてエルサレムの地<sup>ち</sup>に帰<sup>かえ</sup>るようにと言<sup>い</sup>いました。マリヤと、ヨセフと、イエスは、ナザレに帰<sup>かえ</sup>りました。イエスさまはそこで成長<sup>せいじやう</sup>し、ご自分<sup>じぶん</sup>の使<sup>つか</sup>命<sup>めい</sup>のために、じゅんびをされたのでした。

(このお話は、ミカ5：2、マタイ1-2、ルカ1-2、ヒラマン14：1-6、Ⅲニーフアイ1：15-21に書<sup>か</sup>かれています。)

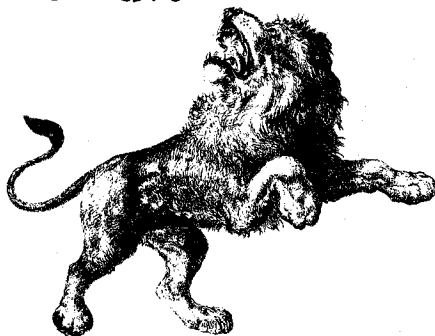
# せいしょにでてくる どうぶつ

① アブラハムはむすこのイサクのために、ふさわしいつまをみつけようと、しもべをつかわしました。ある日、イサクが野原のほらにいと、しもべと、つまになるリベカが□□にのつて、やってきました。  
(創世そうせい24：63)

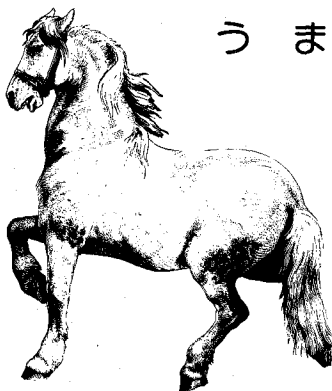
② エライジヤは、かみのよげんしゃでした。ひどいききんで食べものがないうきに、かみさまは□□をつかつて、エライジヤにパンとにくをはこばせました。  
(列王上れつおうじやう17：6)

③ サムソンは、つよい人ひとでした。ある日、サムソンはすでに□□をころしました。  
(士師14：5-6)

らいおん



うま

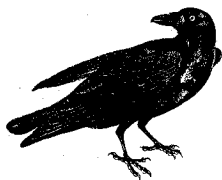


どれも、せいしよに<sup>で</sup>出てくるどうぶつです。それぞれのお話<sup>はなし</sup>に出てくるどうぶつを見つけ、下の<sup>した</sup>絵と線<sup>えせん</sup>でおすんでください。ほかのせいくに出てくるどうぶつの<sup>え</sup>絵をかき、その話<sup>はなし</sup>をして、かぞくにどうぶつ<sup>なまえ</sup>の名前をあててもらっても、おもしろいですね。

④ モーセがイスラエルの<sup>ひとびと</sup>人々をエジプトからみちびき出そうとしたとき、かみさまは、パロやエジプトの<sup>ひとびと</sup>人々に、わざわいをおくりました。そのひとつは、□□<sup>なか</sup>でした。□□<sup>なか</sup>はいえの中<sup>なか</sup>や、しんだいの<sup>うへ</sup>上にもあがって来ました。かまどの中<sup>なか</sup>に入<sup>はい</sup>ったり、人の<sup>ひと</sup>からだにはいあがったりもしました。  
(出エジプト8：3)

⑤ アンモンはレーマン<sup>しん</sup>人<sup>じん</sup>にでんどうに行<sup>い</sup>きました。アンモンは<sup>おう</sup>王の友<sup>とも</sup>だとわかってもらうために、<sup>おう</sup>王のしもべになりたいとい<sup>い</sup>ました。アンモンは、わるい<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>の手<sup>て</sup>から<sup>おう</sup>王のヒツジ<sup>ひつじ</sup>のおれ<sup>おれ</sup>をまもりました。ほかのしもべが<sup>おう</sup>王<sup>おう</sup>にほうこく<sup>ほうこく</sup>に行<sup>い</sup>っているあいだ、アンモンは<sup>おう</sup>王<sup>おう</sup>の□□のせわ<sup>せわ</sup>をしていました。  
(アルマ18：9)

からす



らくだ



かえる





## '85年ミス・アメリカに選ばれた シャーリーン・ウエルズ姉妹

19 85年の第63代ミス・アメリカに、50州の代表の中から末日聖徒であるシャーリーン・ウエルズ姉妹（ブリガム・ヤング大学3年生、20歳）が選ばれた。

ウエルズ姉妹は、七十人第一定員会会員のロバート・E・ウエルズ長老とヘレン姉妹の三女（7人兄妹）としてパラグアイに生まれ、ウエルズ長老の教会幹部としての召しに伴ってチリやアルゼンチンで育った。ミス・アメリカのコンテストでも、南アメリカの伝統的衣装に古典ハープでパラグアイのフォークソングを披露し、豊かな才能と個性をアピールした。

報道関係者が「モルモンの日曜学校教師」と呼ぶ彼女は非常に信仰篤く、受賞後の記者会見で「私は末日聖徒の家庭に育ったことをとても誇りに思っています。信仰は、私の生活の一部です」と述べ、自分の信念を披れきした。

またチャーチニュースのインタビューに答えて、次のように述べている。「私がミス・アメリカであることのみならず、末日聖徒として人々から注目されることは十分承知しています。とても大きな責任ですが、私の信じている事柄をお話できる良い機会でもありますので、最善を尽くしたいと思います。また皆さんに誇りに思われるように努めたいと思います。」

シャーリーン・ウエルズ姉妹はミス・BYUとミス・ユタの両タイトルをすでに受けており、ミス・アメリカの栄冠は末日聖徒としては彼女が初めてである。

ウエルズ長老は娘のミス・アメリカ受賞について、こう語っている。

「彼女は信仰について語るのを躊躇ちゆうちよすることはないでしょうが、それを誇示する必要もありません。今まで通りの生活をして、教会のよい代表者になってくれればと思います。」

過去のミス・アメリカがスキャンダルを起こして関係者を苦りきらせていたときだけに、保守的な良き伝統を受け継いだウエルズ姉妹に白羽の矢が立ったのもうなずけよう。ウエルズ姉妹はミス・アメリカとして、今後1年間テレビ出演など各種の行事に花を添えることになる。

●「チャーチニュース」  
（9月23日付）より転載

末日聖徒であること  
を誇りに思います



## 一般市民との交流を 深めたオープンハウス

—東京ステーキ部—

9月24日から30日までの7日間、吉祥寺にある東京ステーキ部センターで、教会を一般市民に無料公開して各種催し物を行なうオープンハウスを実施しました。

この企画は、日頃私たちが行なっている活動を紹介することを通して、私たち自身が楽しむと同時に、多くの人々に教会を身近なものとして感じてもらうと考へて計画されたものです。英会話やバスケット、バレーボールなどのスポーツ、さらにホームメイキングやスカウト活動など全部で12種ほどの活動に多くの教会員、非教会員が集まりました。

開催にあたっては3,000枚からの宣伝用パンフレットを会員や宣教師が配り、看板や垂れ幕も力を合わせて作りました。

教会堂の各部屋には、福音のフロアのほかにお父さんの部屋、お母さんの部屋、青少年の部屋、子供の部屋を常設し、それぞれのセクションで教会員がどのような活動を行なっているのかわかるようにするとともに、食糧貯蔵などのプログラムも紹介しました。福音のフロアの

廊下にはイエス様などを描いた5枚の絵を壁一杯に張りましたが、多くの人たちの力作であるその絵は、大変人目を引きました。

教会や私たちの周りには、多少興味はあるものの、いざ教会に行くとなると「何かむずかしいことを言われるのではないか」「宗教の世界はどうも」といった壁を感じてしまって福音を聞く機会を逃している人がいます。そこで福音を前面に押し出すことはせず、そういった人たちが気軽な気持ちで参加でき、お互いに地球上で生活を営む者として一般的な問題について話し合い、考える機会を作ろうということになりました。そこで、オープンハウスの目玉として9月24日の祝日に「日本のお父さん」というテーマのシンポジウムを行ないました。

パネラーとして、ステーキ部内のふたりのお父さんのほかにケント・ギルバート兄弟、ケント・デリカット兄弟、そして山口（斉藤）こず恵姉妹といったお茶の間で人気のある方々と、中央カウンセリングセンター所長の吉田哲さんに出席していただきました。

そこではまずそれぞれのお父さんについてのイメージや思い出などを語ってもらい、それから日本のお父さんと外国のお父さんの違いや、昔のお父さんに比べて今のお父さんはどう変わってきたかなどについて、会場の意見や資料、さらに吉田さんのアドバイスを含めて討議を進



●オープンハウスの初日に行なわれた公開シンポジウム。左から斉藤こず恵姉妹、ケント・ギルバート兄弟、中央カウンセリングセンター所長の吉田哲さん、ケント・デリカット兄弟、内山雅宣第一副ステーキ部長。

め、さらに教育や夫婦間の問題にまで発展していきました。ふたりのケント兄弟の持つユニークな雰囲気もあって終始楽しく進みましたが、討議の内容もかなり濃く、知的で非常に興味深いものとなりました。

当日、会場は約350人の人々で一杯になりました。そこではほかの日の活動の紹介やデモンストレーションなどもあり、オープンハウスの初日に行なわれた集会としてはとても意義深いものになりました。

また地域の人々への良いアピールになったと同時に、会員内の意識を新たにすることができました。

打ち上げ花火的に終わることだけは避けようということで、日常の活動の紹介に主眼を置いた今回のオープンハウスは、シンポジウムの成功もあって多くの非教会員や求道者の関心を教会に向けることができました。それは直接福音の紹介には結びつきませんが、教会に親しんでもらうために大きな意味があったと思います。

最後に今回のオープンハウスに主の助けが

あったことと同時に、実際に働いてくださった七十人や宣教師、そのほかの方々に心から感謝したいと思います。(レポーター：東京ステーキ部活動委員・波田野隆)

## オープンハウスに 注いだ情熱 —すべてが伝道です—

**私** がオープンハウスの計画を初めて知ったのは、2カ月ほど前の8月初めでした。ステーキ部、ワード部のすべての指導者が集まって原案が発表されましたが、そのときはまだよくまとまっておらず、いろいろな問題があって、どんなオープンハウスになるのか見当もつきませんでした。また準備する期間が短く、どれだけの人が来てくださるのかとても不安でした。



●(左)オープンハウス会場の受付。壁にはイエス・キリストを証するふたつの記録を手にするエゼキエルの絵が張られている。 ●(右)教会の回復を伝える福音のフロア。

私はこのオープンハウスで、ひとりでも多くの神の子供たちが教会に来るチャンスを得て私たちの福音について知っていただきたいと心から思いました。そして何かとても効果的な、視覚による伝道が必要であると感じました。教会は強制される所ではなく、自由意志によって私たちが成長するのを助けてくれる所だと、強い印象によって知ってもらいたかったのです。

モルモン経を心から読めば必ず神様が導きを与えてくださることを確信していましたので、ぜひモルモン経を紹介したいと思いました。以前私もそうでしたが、教会に来ることと同様に、モルモン経を読むことは簡単なようでとても信仰が必要です。そのモルモン経を、教会を歩きながら簡単に知ることができて関心が持てるようにと、モルモン経を紹介する絵を壁に描こうと思いつきました。

イエス・キリストを証するふたつの記録を手にするエゼキエル、約束の地に着くりーハイとその民、モルモンの泉でバプテスマを施すアルマ、アメリカ大陸を訪れたイエス・キリスト、そして金版を神に託すモロナイの5枚の絵を、模造紙をつなぎ合わせて描くことにしました。多くの若い兄弟姉妹が助けをくださいましたが、ひとつの絵が壁一杯の大きさで、しかも1週間前から始めたので作業はなかなか進みませんでした。しかし私たちには、必ずできる、しなければならぬという不思議な連帯感がありました。そうです。皆、伝道というひとつの目的を持ってこの作業に取り組んでいたのです。絵は神様と会員の皆さんの助けにより奇跡的に完成しました。

オープンハウスの期間中、同時に行なわれていたほかの催し物も、素晴らしい親睦の機会となりました。特に英会話には連日30人近くの方

方が参加してくださり、オープンハウスが終わった今も続々と新しい人が来ています。東京南伝道部では、このオープンハウスを機にすべての人に面接を受けていただき、今までなかなか聞くことのできなかった教会についての質問をすることにしました。私たちが初めはとても不安で、せっかく来てくださった方も、もう来てくださらないのではないかと心配しました。しかし多くの方々が「教会について話を聞いてみたい」と答えてくださったとき、今まで思い悩み続けていたことが取り越し苦勞であったと思いました。本当に多くの方が準備されているのです。

今、オープンハウスのときに行なったアンケートを中心に、ステーキ部会長会、高等評議員、ステーキ部宣教師、そして私たち専任宣教師が教会に興味のある方々の所へ訪問しています。

私の伝道も10カ月がすんでしまいましたが、このオープンハウスを通してすばらしい証を得ました。私はアルマが語ったように、「神の道を宣べ伝えるのは民に正しいことを行わせるのに非常に効<sup>こう</sup>があって、……強く人の心を感化する」

(アルマ31:5) ことを知っています。この伝道のみ業において人々を改宗する一番効果的な方法というのはなかなか見つかりません。しかし一人一人の要求を知り、それを行なうよう努力したときに神様は祝福してくださいます。オープンハウスからのバプテスマが来週の日曜日<sup>うら</sup>にあり、私は今「嬉しくてたまらないので、霊が肉体から離れるかと思うほど夢中に楽しい」(アルマ29:16)です。

新山ステーキ部会長を初め、この地で熱心に働くすべての人々に感謝しています。この地の人人に福音を伝えることができて幸せです。(レポーター：東京南伝道部専任宣教師・板谷栄)





## 東北の開拓者・堀江恵助 兄弟(73歳)逝去

### ●夫と共に歩いた17年の信仰生活

仙台ステーキ部福島ワード部 堀江 トミ

堀

江恵助兄弟は、1984年8月2日午後9時45分神様に召され永眠致しました。私にとってかけがえのない、とても大切な人生の道連れでした。21歳で結婚して53年、善きにつけ悪しきにつけ共に笑い共に泣いた私たちでした。私たちは子供に恵まれませんでしたので、ふたりで相談し、相計り、手を取り合って生きてきました。

教会に入る前の私たちは、中年時代に入って何となく自分たちの心の支えになる何かを求めような心細さを、ときに感じるがありました。私たちが年老いたら、そして、どちらかが先に死んだら……などと考えると寂しさが潮の満つるように心を埋めるのでした。ふたりでいろいろ話し合うとき、娯楽や遊びだけで幸せを感じるの是一時のことで、その後に来るけだるさやつまらなさは何だろう……と迷い、また夫は仏教の本など、いろいろな本を読みましたが、これと言う解決策はありませんでした。

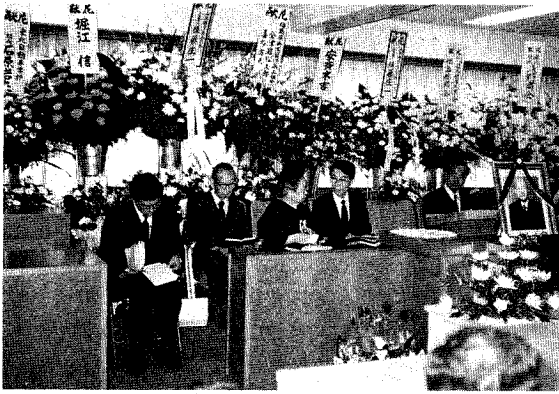
そのようなときでした。昭和42年3月25日、夫と我が家のこたつにいたとき、ひとりの外人と小さな日本人が玄関の戸を開けて入ってこられました。たどたどしい日本語で、「話を聞いてくれ」と言うのです。何となく招き入れて話を聞きました。それが私たちが末日聖徒イエス・キリスト教会を知った初めての日です。

おぼつかない日本語で「神様とイエス・キリストは本当に生きている」と明言するのです。

そして「その真実を世の中の皆様に知っていたくために、自分たちは自分のお金で世界中の国に派遣され伝道をしている」と、はっきりと言われました。このおふたりは加数長老とハンセン長老という方々でした。年若いこのふたりの真実に輝く顔を見、話される事柄を聞いていくうちに、私たちはすばらしく温かい思いが胸にあふれてきました。そして「この若い人たちを真剣にする『何か』があることは本当だ」と信じてよいと思いました。

その後ときどき訪問していただき、彼らのアパートの一室の教会へ初めて行きました。お部屋に座布団を敷いて4人の宣教師がニコニコ笑顔で迎えてくださいました。そのとき集っていた方は、今思えば早川兄弟とそのお友達だったと思います。様々な話を聞いて一時間が過ぎ、帰途に着いたとき、何という心の温まる集まりだろう、商売の取り引きで心が休まらない他人との出会いにはないすばらしい何かがあると思いました。夫の日記にもそう書いてあります。

そして私たちは1967年の6月18日にバプテスマを受けたのです。まだ始めたばかりの教会でしたので市内の「菊の湯」という小さな銭湯の開店前の湯舟の中に立ってバプテスマを受けたのでした。そして、按手札をいただいたとき、今までの汚れが洗い流されて、本当に魂がきれいになったようすがすがしさを感じたのです。その日以来、私たちは教会と一緒に歩いて参り



●8月5日、福島ワード部教会堂で行なわれた堀江恵助兄弟の告別式には教会内外から300人が詰めかけ、故人のめい福を祈った。堀江兄弟は地元教会員として初めて福島支部長に召されて以来、経営者としての多忙な生活にもかかわらず、主のみ業のために献身的に働いてこられた。

ました。初めは迷うこともありましたが、そのつと聖典を読み、皆様の証を聞き、心を神様にゆだねることの重大さを教えられてきました。

夫と共に、ハワイ神殿に初めて参入したとき、青い空に映える真っ白な神殿を仰いだときの感激、これこそ天国だと思いました。そして数々の儀式と祝福をいただいて、「ああ、生きていて良かった」と喜びもひとしおでした。またその後、ソルトレーク神殿まで行かせていただき、以前に福島で伝道されたたくさんの宣教師たちに会い、世界中にこのようにたくさんの兄弟姉妹がいるのだと思う心強さを覚え、「ああモルモンになって良かった」と思ったのです。

いろいろなことがありました。小さな家の教会から転々とあちらこちらに移りました。でも今はすばらしい教会堂が福島にできあがりました。神様は常に、私たちを忘れずに導いてくださいます。

完成した新しい教会で集会ができたとき、どんなに夫が喜んだことでしょう。「ああ、これで肩の荷がおりたようだ。この教会で第一号の告別式をやれたら本望だろうなあ」と喜んでおりました。今考えると、夫の最も望んだ願いがかなったと、胸が一杯になります。事実その通り

になりました。

兄弟姉妹の温かい心からの奉仕の中に、たくさんの知人や親戚の方々のお見送りをいただき立派な告別式をしていただいたことを、深く感謝し、お礼申しあげます。また神様が生きて私たちを常に見守ってくださいのを知っております。本当にありがとうございます。(ほりえ・とみ 1911年生まれ、福島ワード部)

## 日々の恵み

— 歯科医としての経験から —



札幌伝道部  
函館支部

近藤 玲子

今から5年前、大学を卒業して札幌のある歯科医院で働き始めました。それから間もなく姉の紹介で教会を知るようになり、末日



聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました。

教会に集って福音を学び、それを実践することにより、また奉仕の機会を通して、数多くのみたまの導きや霊的な喜びをいただくことができました。それらの祝福や喜びは教会の中だけにとどまらず、私の仕事の上にもたらされています。

あるとき、私は患者さんの歯を抜こうとしていました。しかし歯と顎の骨はしっかり癒着していてなかなか抜けません。私は心の中で祈り、導きを求めると、神様は私の心の中にささやきを与えてくださいました。「少し休みなさい。私はそのささやきに従い、患者さんに少し休んでいただきました。隣の患者さんの治療をしているとき、ふとひとつのひらめきがあり、そのひらめいた方法で無事に歯を抜くことができました。

神様と共にあるとき、私の力以上の仕事をすることができます。それは私にとって大きな喜びです。また患者さんに止血のためのガーゼをかんでいただく前に、私はそのガーゼを手で押さえて祈りました。

「この仕事を無事終わられることを感謝します。どうぞ患者さんの体を祝福し、この傷が癒されますように。」

人間の力はとても小さく、限られています。私は歯を抜くことはできてもその傷を治す力はありません。失われた歯を代用する入れ歯やブリッジを作ることはできても、物をかむ力は神様の作られる歯に比べ、小さな力となってしまいます。

神様がくださった私たちの体は、とても素晴らしいものです。また私たちの歯は、どんなに高価な宝石よりも貴いものです。

仕事柄、歯の自己管理の大切さを身にしみて感じます。特に子供たちの虫歯は親の責任であ

り、子供たちに歯みがきの習慣を身に付けさせる必要があります。きれいな歯は神様からの贈り物ですし、よい習慣は両親からの贈り物だからです。(こんどう・れいこ 函館支部セミナー教師)

## 末日聖徒の家庭に見た真の幸福

一日蓮宗の信仰から改宗—

町田ステーキ部藤沢ワード部

錠姉妹 木村 真知子

木村姉妹—



**私** はパプテスマを受けた日を生涯忘れることができず。それは、私の生きてきた中で一番の艱難を受けていたときだからです。

私は、結婚と同時に主人の実家の信仰である日蓮宗の日本でも大きな宗教団体の会員となりました。その信仰は、他宗派を排斥する教義のために、神の存在を完全に否定し、イエス・キリストを批判するものでした。私も11年もの間イエス様を批判し続け、その宗教団体の機関紙である新聞を毎朝配達するなどの様々な活動を

続けていました。その間、ふたりの子供に恵まれ、子供たちにも信仰の大切さを教えてまいりました。

しかし、11年も同じ信仰を持っていながら、私たち夫婦は考え方、生き方、すべての価値観の違いをどうすることもできなかったのです。また、経済的にも精神的にも様々な困難に直面しました。

そのような生活の中で、ある理由から突然それまで住んでいた家をすぐにでも出なければならぬ状況に追いつめられたのです。しばらくして離婚という事態となり、その後のほんの数カ月の間に信じられない出来事が次々に起こりました。子供たちふたりを引き取り、それまで家庭にいた私が生活を支えていかなければなりません。たび重なる苦難の中、今までの11年にわたる信仰生活は一体何だったのかと疑問を抱くようになっていました。

しかし私が多くの苦難を抱えて藤沢の地へ移転してから、私の人生はさらに大きな転機を迎え、道が備えられていたかのようによい方向に導かれました。

私が苦難の中から救われ、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になれたのは、藤沢に住んでいる私の姉夫婦、沼田兄弟姉妹のお陰です。神権者である沼田兄弟が家庭を守り、責任を果たそうと努力する姿、そして沼田姉妹の夫を信頼しきっている姿は私には驚きでした。

日曜日ごとに姉夫婦と共に教会に行くようになり、しばらくして姉妹宣教師からレッスンを受け始めました。碓姉妹とジョーンズ姉妹のおふたりはとても明るくすてきな方々でした。けれどもそれまでずっと批判し、心を堅く閉ざしていた神様の教えですから、初めはおふたりのレッスンは私の心に入ってきません。モルモン経も読み始めていましたが、これも同じです。

しかし何度か教会に行っても多くの人々の証を聞き、レッスンを受けていくうちに、自分の信仰に不信を抱き始めていた私は、本当に神様が生きておられるなら私も知りたいと思うようになりました。そして心を開いたときから、モルモン経も宣教師のレッスンも、信じられないほど私の心に入ってきました。

町田ステーク大会のときでした。大会の途中、私は体の震えを感じ、その震えは大会が終わってからも止まりませんでした。私はひとり、礼拝堂に残って祈りました。「神様、教えてください。この震えは何なのでしょう」と。

どのくらいだったのでしょうか。碓姉妹とジョーンズ姉妹が入って来られ、私のそばに座り、碓姉妹がいつものように神様のお話を始めました。そのとき私は涙が出て止まりませんでした。不思議にも体の震えは止まっていました。そのことをお話したところ、碓姉妹は「それはもうひとりの木村姉妹、霊の体が感じているのですよ」とおっしゃいました。

私が祈り求めていた答えを姉妹宣教師が持ってきてくださったのです。

私がバプテスマを受けるまでに、様々な問題が起きました。しかしそのつど、祈りと断食によってスムーズに解決していき、たくさんの証を得ることができました。

子供の保育園の問題も、私の会社のすぐそばの保育園にひとり退園する子がおり、その代わりに入園することができました。しかしお昼にはお茶が出ると聞いて、うちの子供だけお水にしてほしいとお願いしたところ、ひとりだけ特別扱いはできないと断わられてしまいました。

私は非常に悩み、困ってしまいました。監督に相談したところ、もう一度チャレンジしてごらんなさいと言われ、断食をしてお願いに行きました。すると今度は快く受け入れてくださ

たのです。

小さなことでも問題に直面したときには断食をして祈り続け、一つ一つ乗り越えてきました。

私は仕事をしていますので大変忙しく、子供たちとゆっくり接する時間がなかなか持てません。その中でも私たちはできるだけ毎日、3人で聖典を学ぶようにしています。上の息子は今年10歳になり、下の娘は7月で6歳になりました。始めは1節をやっと読んでいた娘も、2節、3節とゆっくりですが読めるようになってきました。

朝の出がけには1日の無事を祈り、子供たちと握手をしてから出かけます。また夜にはその日1日の祝福を感謝し、3人でひざまずいて祈ります。日々の生活の中で、祈り、福音を学び、戒めを守ることの大切さを子供たちに教えていきたいと思っています。また私自身も、ひとりの人間として自分自身を高めていきたいと思っています。

この数カ月の間に私の人生は180度変わり、神様の真の教会の会員となることができました。子供たちと共に、主のみもとに帰ることのできる正しい信仰を得られ、福音に沿った生活をし、日々主に守られている幸せを感じています。子供たちも神様と多くの人々の愛に見守られながら、明るく育てられています。本当の幸せを知り得たことを心から感謝しています。(きむら・まちこ)

スポット  
ニュース

### 《地区代表に異動》

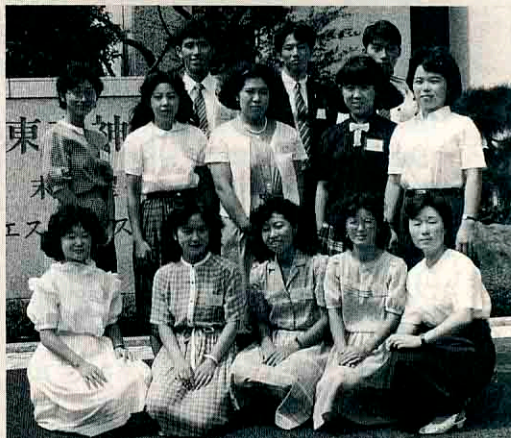
去る10月15日、以下の異動が発表された。

解任：柏倉仁長老、安芸宏長老

任命：岡本亮長老、井上龍一長老(JMTC  
ディレクター兼務) 詳しくは次号にて。

なんじ  
「汝にとりて最も価値ある事は…」  
(教義と聖約16:6)

## JMTC第63, 64期生



●(写真上)8月に召された日本人宣教師13名(JMTC第63期生) ●(下)9月に召された14名(JMTC第64期生)

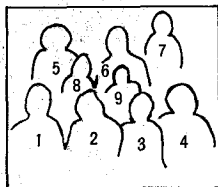
# 宣教師への恩返し

— 私たちは皆末日聖徒の信仰を受け入れました —

北陸地方部福井支部

竹沢 のり子

- ①妹 ②姉 ③母 ④私
- ⑤姪 ⑥夫 ⑦長男
- ⑧娘 ⑨次男



9年前、商店街でおふたりの姉妹宣教師に声をかけられてから、私の人生観は変わりました。

おふたりの名前は、ハワイから来られた真野<sup>マノ</sup>姉妹（60歳代）と大阪から来られた志野（旧姓津田）姉妹です。私は妹を誘っておふたりの愛に吸い込まれるようにしてバプテスマを受け、感謝で一杯でした。どうしたらこのお礼ができるかお尋ねしましたら、神様も宣教師も、求道者を紹介することが一番喜ばれると言われました。

さっそくおふたりのお友達を紹介しましたが、戒めがむずかしく、改宗まで至りませんでした。そのとき伝道のむずかしさを知ると同時に宣教師の偉大さに改めて感動を覚えました。その頃から、宣教師の愛への恩返しは求道者を見つけることだとしっかり心に刻みしました。

バプテスマを受けてちょうど1年後に、非教会員の主人と結婚しました。教会の人たちは、私が教会から遠ざかってしまうのではと心配してくださいました。それでも祈り続けて確信を得た結婚だったので、神様を信じていました。

5年かかっても10年かかってもいい、いつか一緒に教会へ集ってくれればと思って、教会員としての気づきだけはいつもしていました。

そして主人はあるとき求道者としてレッスンを受ける機会に恵まれ、途中いろいろ試練はありましたが、結婚後1年6カ月で改宗しました。

それから6年たって3人の子供に恵まれ、育児や教会の責任、仕事を通していろいろなことを学ばせていただきました。子供たちが神様の子供としてはずかしくない信仰を身につけ、憧れの宣教師になるように育てるのは私たちの大きなチャレンジだと考えています。宣教師のレッスンを手伝うのに立ち合ったとき、いつも宣教師たちのご両親を想像しながら、尊敬の念で一杯になります。

神様からの祝福をいただくたびに、宣教師へのお返し気がなります。求道者を紹介しなくてはと思っていたとき、ロレンゾ・スノー大管長が啓示を受けて什分の一の律法について説く「天の窓」というビデオを見る機会がありました。私たちが主の律法に従順に従うことによって主が天の窓を開いてあふれるほどの恵みをくださることを知り、強い感動を覚えました。私

たちができる限りの努力をするとき、それが主のみこころならば不足分は主が必ず補ってくださいという強い確信が生まれ、母を宣教師に紹介しようと思いつきました。

私の尊敬する母は人生の大先輩で、働くことの美しさ、努力することの大切さ、我慢することの必要性を教えてくださいました。手編み手芸一般の教室とお店経営をして30年、15年前の父の急死という試練を乗り越えて、私たち子供4人を社会に送り出してくれました。女性として、母親として、地味なキャリアウーマンだと思います。

母がたくましく生きてきた根底には、信仰がありました。私は子供の頃から母に連れられて、あるキリスト教会へ通い、母の信仰を見てきました。今教会員でいられるのは母のおかげだと思っています。そんな母が9年前、私と妹がバプテスマを受けたいと言ったら猛烈に反対しました。母が集っている教会の人たちから、モルモン教会はサタンの教会だと聞いていたからです。

しかし姉妹宣教師のおかげで信仰が強くなっていましたので、母に内緒でバプテスマを受けてこっそりと集っていました。そのために教会のことに関しては、冷戦状態が続いていたのです。私は改宗してから9年間1度もこの教会のことを母に話したことがありませんでした。母への伝道についてまったく努力していないことに気づき、だめでもともと、声だけでもかけてみようと思い、宣教師に紹介しました。

内心ドキドキしながら、顔は明るくさりげなく、タイミングも大切にしました。そうしますと意外にも、友達野路さんと私の姉との3人でなら聞いてみてもいいという返事でした。ひとりでは受けるよりも3人の方が責任が少ないという母の防御心が多分にあったと思います。

いよいよ合同レッスンは始まり、私にとって緊張した数週間が続きました。といいますが、30年もほかの教会に集ってきた母にとっては、数多くの疑問があり、宣教師にそれらの疑問をぶつけては困らせていたからです。

何人も宣教師のお世話になり、1年と2カ月ぶりに、やっと母は改宗しました。不足分は本当に主が補ってくださいました。あるとき突然、母に証が広がっていったのです。大好きだったお酒がどうしても飲めなくなったり、嫌いだったモルモン経を読むのが楽しみになったり、扶助協会に出席してみんなの前で堂々と証をしている母の姿を見て、神様の偉大な力にただ感謝の気持ちで一杯でした。

母が誘った私の姉は、母より9カ月前に、お友達の野路さんは2カ月後にバプテスマを受けることができました。3年前に改宗していた姪は、姪の母親である私の姉と一緒に教会に集えるようになりとてもうれしそうです。

また姉の息子と私の伯母がレッスンを受け、伯母は今年の8月19日にバプテスマを受けました。人ひとりの影響力の大きさを今さらながら再認識させられました。

根気よく献身的にレッスンをしてくださったタイラー長老、竹馬長老、山本長老、タラリー長老、岩佐長老ほか、たくさんの宣教師に心から感謝しています。神様と宣教師に恩返しができるのは、伝道のお手伝いだと思います。求道者を見つけだすことにまだまだ力を注がなければと感じています。伝道活動を通して宣教師に接触するたびに、自分の信仰が清められ、強まることを心から証します。

最後に、主人が神権を通してよく助けてくれたことを、また子供たちもよく協力してくれたことを感謝しています。(たけざわ・のりこ 1948年生まれ、福井支部扶助協会会長)



## 「ミス・マガジン」に選ばれて — 試練に立ち向かう勇気 —

横浜ステーキ部 斉藤 由貴(18歳)  
横浜中央支部

「少年マガジン」という雑誌では年に1度、読者の投票によって雑誌の表紙を飾る「ミス・マガジン」を選ぶコンテストがあります。今回、私は縁あって3代目に選ばれました。選ばれたことについては別段感じるものもなかったのですが、これからどうするかについては大きな期待と不安がありました。演劇は以前から好きでしたので、できればその方面に進みたいという希望もありましたが、何しろ私には芸能界など現実ばなれて見え、きっと大学へ行ったらそのうち忘れてしまうだろうぐらいにしか思っていませんでした。

ところが今回「ミス・マガジン」に選ばれたことからテレビのコマーシャルに出演することが決まりました。芸能界に入ることが現実の問題となってくると、教会員としての不安が大きいのしかかってきました。芸能界は悪い所とは言いませんが、やはりいろいろと問題の多い世界です。

そこへ案の定、ひとつの試練がふりかかってきました。写真撮影のとき、衣装合わせに行ってみるとビキニが数点あったのです。ほとんど

困り果て、そのときは何とか免れたのですが、はっきりと断わらなければ当然撮影地で着ることになります。皆さんは「そんなことで迷うなんて」と言われるかもしれませんが、私にとっては千載一遇のチャンスを逃すかもしれないという気持ちと、教会員としての気持ちとのほざまに立たされ、泣きたくなるほどのものでした。

その帰り、結婚した姉のもとに相談に行きました。いろいろ話をして、ここで妥協してしまつたら、この先どんどん度を越すことになる、と言われました。また「神様の戒めを守れば必ずそこには道があり、神様がその責任を持ってくださる」とのアドバイスを受け、義兄と姉のその言葉によって完全にその試練に打ち勝つ決心がついたのでした。

そのとき私は生まれて初めて、本当に神様を信じるということがどんなことかわかりかけたような気がしました。それは決して甘くなく、それどころか厳しくさえあることを。また私は、「神様を愛する」ことが「神様を信じる」とこと深いところでつながっているのを身をもって知りました。信じることさえいざとなると容易ではなかったのに、行ないが伴うとなるともつと大変だとも思いました。しかしその大変さを知ると同時に、私はますますこの教会が真実であるという確信を強めました。

家に帰ると、私は落ち着いた気持ちで両親に、こういうことがあったが断わることにした、と話すことができました。するとどうでしょう。

父も姉とまったく同じことを言ったのです。

私はその晩寝る前に、神様に家庭でのこうしたモルモンとしての成功に感謝し、またそのおかげでこんなにも弱い私が試練に立ち向かうことができるのを、心から感謝しました。

翌日そのことを社の編集者の方や、マネージャーにお伝えし、教会についても話すと、とてもよく理解していただきました。そして今後水着姿の撮影は行なわないということにまどなったのです。カメラマンや編集部の人も、「由貴ちゃんは水着や身体を必要とするイメージじゃないから、もっと質をよくしていきたい」と言ってくださいました。本当に心から神様に、家族に、教会の人々に感謝しました。

これから、もっともっといろいろなことがあるでしょう。華やかな誘惑もあるでしょう。しかし、末日聖徒として生活する以上に昇華され、完成された最高の人生があるのでしょうか。みずみずそれを捨てるようなことはしたくありません。私にこの仕事を与えてくださったのは神様です。仕事をしていくたびに、私は高慢になるどころか自分の無力さを、家族の助けの強大さを思い知らされるばかりです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の教えは、私にとって辞書のようなものです。完璧な1冊の神様の辞書です。ひこうと思って手に取り、ページをめくる努力さえすれば、答えはあるのです。もしそれでもわからなければ、信頼できる知識のある人に聞いてみればいいのです。

実際に私も、表面の目先だけの華やかさに心を奪われ、決心がぐらついたりしました。しかし私の場合、自分に頼らず家族の助言を求めたことにより、真実を、本来の自分を見極めることができたのです。

私はこの仕事で成功したいし、将来幸福になりたいと思っています。幸運にも私はその機会

を与えられました。あとは私の選びと努力にかかっています。そのためにも「常に主を念頭において」(アルマ37:36)、また神の子供としてしっかりと「鉄の棒」(I ニーファイ11:25)を握りしめ、歩いていきたいと思っています。(さいとう・ゆき 1966年生まれ)

## 渋谷ブックセンターから

改装丁

### 信仰箇条の研究

ジェームズ・E・タルメージ著

B6変 726頁 400円

●開きやすいように表紙がソフトカバーとなり、再版された。当教会の13

の信仰箇条に織り込まれている教義と原則を詳細に解説しており、求道者および新会員にも聖書と末日の聖典との関連の中で教義の理解を深めることができる。聖典と共に座右に置いて活用していただきたい一冊。

## 編集室から

### 《原稿を募集しています》

●来年度1月号から「聖徒の道」も大判になり、16頁にわたるローカルページにも多くの方々の記事が掲載できるようになります。したがって皆様からの積極的な投稿をお待ちしています。各地の身近な話題や行事、日々の信仰生活から得ている証など原稿をお送りください。2月号掲載分の締切は12月5日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)を記入してください。

●あて先:〒106東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室。☎03-440-2351(代)



# 聖徒の道索引

1984年 1月—12月

第28巻 第1号—第12号

## ☆イエス・キリスト

イエス・キリスト；救い主、贖い主(ペンソン) … 1月	9
「それではキリストといわれるイエスは、 どうしたらよいか」(ヒンクレー) … 5月	1
それほど神は世を愛してくださった (キンポール) … 5月	7
イエスの歩まれたところを(リー) … 5月	38
基督イエス—その言葉と意味(ダラム) … 7月	24
使徒が語るキリストの証(ハンター) … 8月	7

## ☆祈り

天にいますわれらの父よ(ベリー) … 1月	19
祈りの方法(マッコンキー) … 7月	57

## ☆家庭・結婚

親と子の面接(エイシー) … 1月	24
「あなたの父と母を敬え」(ダン) … 1月	44
子供を思いやる両親(ハンター) … 1月	112
結婚生活を育むために … 2月	13
近きにありて遠きもの(自閉症児とともに) … 3月	16
幸福な結婚をもたらす律法(質疑応答) … 4月	22
家族に流れる海流(キンポール) … 6月	1
聖典を自分たち夫婦にあてはめて … 6月	20
結婚と離婚(ヘイト) … 7月	20
永遠の家庭を築く(モンソン) … 7月	27
家庭を天国のように(クック) … 7月	53
主は我が心を変えたもう … 8月	16
仲むつまじくあるために … 10月	7

## ☆質疑応答

主の再臨の場所 … 3月	14
幸福な結婚をもたらす律法 … 4月	22
守護天使は存在しますか … 5月	28
モルモン経に記されている年代 … 5月	30
水の上を歩いたベテロ … 6月	15
「モルモン」という言葉 … 6月	18
「岩」という言葉の象徴的な意味 … 8月	12
アダムまでの系図 … 8月	14
純潔の律法 … 9月	7
主の降誕以前の主のみ名 … 9月	10
モルモン経と神殿事業 … 10月	14
優先順位のつけ方 … 10月	19

証を得るには … 11月	22
ホームティーチャーの同僚を活発にするには … 11月	27

## ☆自由意志

自由意志と愛(ハングス) … 1月	37
自由意志と責任(キャノン) … 1月	142

## ☆神権定員会

「汝らはいかなる人物にてあるべきか」 (ペンソン) … 1月	76
欺かれてはならない(ヒンクレー) … 1月	81
神権の祝福 … 4月	25
失われた羊を連れ戻す(ワースリン) … 7月	71
私の羊を養いなさい(パッカー) … 7月	75
我が家のホームティーチャー … 8月	40
私の兄弟がそこに住んでいます … 10月	36
ホームティーチャーの同僚を活発にするには … 11月	27

## ☆人生・日常生活

人生の謎(パッカー) … 1月	27
実を結んだ訪問教師メッセージ … 2月	20
光は決して動かない … 2月	32
聖徒たるにふさわしく … 2月	34
永遠の展望 … 2月	37
特別な人 … 3月	24
義の武器(エイシー) … 3月	28
われらは正直なるべきことを信ず(アシュトン) … 3月	35
「シンディーに」 … 4月	24
マシューから贈られたテキスト … 4月	27
委任するとき、しないとき … 4月	35
バスを乗り違えて(シル) … 4月	41
できますとも … 5月	18
「それが私がいたたくものですか」 … 5月	19
新会員の皆さんへ(ダン) … 5月	20
ホテルの入口で見た謙遜さ … 5月	32
勝利 … 5月	34
良いイメージを与える … 6月	8
アヒルはさまざま … 6月	26
命綱 … 6月	31
人を裁くな … 6月	35
分類にとらわれず—独身者の生き方 … 8月	20
15歳：祝福の年 … 8月	34
私たちはクリスチャンです(ウエルズ) … 9月	18
人との比較 … 9月	24
魂の闘い … 9月	30
「いと高き者の子ら」 … 10月	22
強風に払い清められた … 10月	24
祝福による祝福 … 10月	27
名も知らない人 … 10月	34
隣席(クック) … 10月	39
導くのは私、運転するのはあなた … 11月	8
みたまの力を毎日の聖典勉強から … 11月	17
養蜂家 … 11月	29
任命 … 11月	33

水とパンに……………	11月	40
クリスマスの使い……………	12月	10
クリスマスの賜り物（ピーターセン）……………	12月	12
「敵を愛せよ」の教え……………	12月	15
あらゆる良き賜（ヘイルズ）……………	12月	34

## ☆神殿・系図

主の宮殿（小松）……………	1月	47
系図と神殿事業……………	5月	12
「お願いだ、神殿の儀式をしておくれ」……………	5月	16
モルモン経と神殿事業（質疑応答）……………	10月	14

## ☆人物

聖見者ヨセフ（マックスウェル）……………	1月	92
ジョセフ・アンダーソン長老……………	2月	22
たたえよ、主の召したまいし（ヒンクレー）……………	4月	1
スティーブの勝利……………	6月	40
父との再会（アブラハム・キンボール）……………	9月	13
ジョセフ・スミスの霊性……………	12月	18
ジョセフの赤レンガの店……………	12月	28

## ☆総大会・一般

第153回半期総大会報告……………	1月	1
教会役員の支持（ヒンクレー）……………	1月	6
「もしひとつとつならずば」（ヒンクレー）……………	1月	7
ラベル（モンソン）……………	1月	32
友か敵か（ディディエ）……………	1月	41
天使モロナイ訪れる！（ピーターセン）……………	1月	50
天の声によるかのごとく（フェザーストーン）……………	1月	65
ヒトデを投げ返す（ヘイト）……………	1月	71
神が授けて下さった信仰（ヒンクレー）……………	1月	86
平和をつくり出す人になりなさい（リチャーズ）……………	1月	97
教せない心の害悪を取り除く（ピーターソン）……………	1月	101
「その鍵は献身です」（アシュトン）……………	1月	106
「憂いは喜びに変る」（ヘイルズ）……………	1月	115
どうしてわかるのか（ブラッドフォード）……………	1月	120
生活を変える力（スコット）……………	1月	124
前進しようではないか（ヒンクレー）……………	1月	132
力を蓄えるとき（スミス）……………	1月	136
主の子らを教える備え（ヤング）……………	1月	139
天父から受け継いだ資質に恥じない生き方（ヒンクレー）……………	1月	146
第154回年次総大会報告……………	7月	1
教会役員支持（ヒンクレー）……………	7月	7
聖徒たちに与える勧告（ハンソン）……………	7月	9
良い方を選ぶ（アシュトン）……………	7月	15
教会監査委員会報告……………	7月	31
1983年度統計報告……………	7月	32
「永遠の神が定めたもうた大計画」（マックスウェル）……………	7月	34
誓約、儀式、奉仕（タトル）……………	7月	40
賢明な選択ができる世代を育てる（キャンノン）……………	7月	44
霧の中を通り抜ける（ハンガーター）……………	7月	47
彼らの人生の炎で暖めさせていただいた		

（スミス）……………	7月	51
主のチームに誰が入るや（ファイアンズ）……………	7月	67
キリストの特別な証し人（ヒンクレー）……………	7月	90
聖なる使徒職への召し（ネルソン）……………	7月	96
「教会の姉妹たちを愛しています」（ウインダー）……………	7月	99
簡潔な福音の真理（シンプソン）……………	7月	101
真理の実践（クラーク）……………	7月	105
バリサイ人と取税人（ハンター）……………	7月	109
バルマイラの近くでの壮大な示現（ファウスト）……………	7月	113
ラッパの確かな響き（アブレア）……………	7月	119
恵みを教えあげ（菊地）……………	7月	123
会員の祈りに支えられて（カーマック）……………	7月	127
貴い生得権を持った若人（カップ）……………	7月	129
小さな行ないが重大な結果を招く（ヒンクレー）……………	7月	136
総大会で発表された主な変更事項……………	7月	141

## ☆大管長会メッセージ

平和の代価（ロムニー）……………	2月	1
人が主の約束を受けられるように助ける（キンボール）……………	3月	1
たたえよ、主の召したまいし（ヒンクレー）……………	4月	1
「それではキリストといわれるイエスは、どうしたらよいか」（ヒンクレー）……………	5月	1
家族に流れる海流（キンボール）……………	6月	1
「このうちで最も大いなるものは、愛である」（ヒンクレー）……………	8月	1
この世が改宗するとき（キンボール）……………	9月	1
霊の真理を身に受け、実行する（ロムニー）……………	10月	1
日の光栄に至る自立の本質（ロムニー）……………	11月	1
大管長会クリスマスメッセージ……………	12月	1
「主、その民をシオンと呼びたまえり」（キンボール）……………	12月	2

## ☆知恵の言葉

知恵の言葉を守るときの心くばり……………	2月	9
----------------------	----	---

## ☆チャーチニュース

ホームティーチングと活発化に関する大管長会と十二使徒定員会の説明……………	1月	152
リチャード・G・スコット長老、七十人第一定員会会長に召される……………	1月	153
扶助協会副会長、任命される……………	1月	154
末日聖徒イエス・キリスト教会ここ10年の歩み……………	3月	54
マーク・E・ピーターセン長老逝去（83歳）……………	3月	58
世界13の地域を管理する地域会長会新たに組織される……………	9月	56

## ☆伝説

ペルーに残る白い神の伝説……………	4月	28
-------------------	----	----

## ☆伝道・改宗

福音を全世界に伝える責任（ゴーズリンド）……………	1月	56
伝道によりもたらされる祝福……………	1月	61

あなたの伴侶の宣教師となる	3月	8
伝道：あなたしか決められないこと	7月	62
福音を全世界に宣べ伝える使命（ベンソン）	7月	80
「それゆえに、あなたがたは行って、 すべての国民を教えよ」（ペリー）	7月	131
日記による私の改宗	8月	37
この世が改宗するとき（キンボール）	9月	1
芽吹く種—宣教師訓練センター—	10月	28

## ☆福祉

日の光栄に至る自立の本質（ロムニー）	11月	1
「主、その民をシオンと呼びたまえり」 （キンボール）	12月	2

## ☆奉仕

奉仕がもたらしてくれるもの	8月	24
不都合なときに多い本当の奉仕 （フェザーストン）	8月	29

## ☆モルモン経

私たちの宗教のかなめ石（ファウスト）	1月	14
「あなたがたはモルモン経をどう思うか」 （マッコンキー）	1月	127
重んじられるべき書物	4月	11
モルモン経に記されている年代（質疑応答）	5月	30
モルモン経についての証	11月	10

## ☆モルモン・フォーラム

子供にバプテスマの備えをさせるには	4月	54
欠点にとらわれず長所を見いだすには	5月	54
うつ状態から抜け出すには	6月	54
家庭で読書意欲を養うには	9月	54

## ☆優先順位

さまざまな声	4月	19
優先順位のつけ方（質疑応答）	10月	19

## ☆子供のページ

小さなお友だちへ（ハイト長老）	2月	42
「のどがかわかないかい」	2月	46
イノスのいのり	2月	50
おもちゃばこ	2月	52
小さなお友だちへ（リチャーズ長老）	3月	42
イエスさまは、どうやってお金をうけとるの	3月	46
よげんしゃヨナ	3月	50
おもちゃばこ	3月	53
トーマス・ケイン かいたくしやお友だち	4月	44
ニタのひつじ	4月	47
かみさまのとやくそく	4月	52
クレアとタレントショー	5月	44
天上の大会議	5月	49
おもちゃばこ	5月	52
小さなお友だちへ（マックスウェル長老）	6月	42
マンディーのあたらしい友だち	6月	46

手話	6月	50
お子さまクッキング	6月	51
おもちゃばこ	6月	52
ジェドと川	8月	42
お子さまクッキング	8月	49
もはんにしましょう	8月	50
おもちゃばこ	8月	52
両方のいいところ	9月	42
ノアとはこぶね	9月	46
お子さまクッキング	9月	50
おもちゃばこ	9月	52
メリサのバプテスマ	10月	42
カインとアベル	10月	48
ハローウィーンのジャコランタン	10月	52
えいゆうースペンサー・W・キンボール大管長	11月	42
アクーマとキバ	11月	46
おもちゃばこ	11月	52
プレゼント	12月	42
おさなごイエス	12月	48
せいしよにでてくるどうぶつ	12月	52

## ☆ローカルページ

合衆国大統領特別補佐官として 活躍する末日聖徒	1月	156
高松ステークス部新聞「ハーベスト」	1月	158
インタビュー ケント・ギルバート兄弟に聞く	2月	54
関東地区 240名が参加した 「セミナリー・グランプリ'83」	2月	57
広島ステークス部徳山ワード部で聖書展覧会開催	3月	59
東京南ステークス部と東京南伝道部の協力による 「クリスマスの集い」	3月	60
名古屋地区ボーイスカウトの クリスマス集会開く	3月	61
「明けましておめでとう」伝道	3月	64
第5回バイク・ア・ソン伝道と ボランティア活動で成果	3月	65
歌は心の友、幸せへの愛の扉 若い男性・若い女性の機関紙	3月	66
「歩励相」のもたらしたもの	4月	60
再組織された東京北ステークス部長会	5月	57
本格的に取り組んだ「ベニスの商人」の公演 厚木支部	5月	57
矢野兄弟「大塩平八郎の乱」の古文書発見で マスコミの話題に	5月	64
9ステークス部合同大会に4,100名が出席 東京・東京北・高崎・静岡地区	6月	57
スティープ・ヤング兄弟、プロスポーツ界最高額 （約96億円）でプロ入団	6月	68
日本東京南伝道部長ロバート・D・グッドウィン	7月	146
日本仙台伝道部長に召された 青柳弘一ステークス部長	7月	146
「フォーエヴァー」ファミリーコンサートに 800人が入場	7月	148
エアロビクス体操と伝道プログラム	7月	150

36代20万人の系図を韓国の神殿へ……………	7月	151
5周年を迎えたボーイスカウト中野第12団……………	7月	152
副題が付されたモルモン経……………	8月	54
東西ステーク支部長会再組織される……………	8月	54
ロサンゼルスオリンピックで通訳として奉仕する 1,000人の帰還宣教師……………	8月	55
子供の日に親子で神殿参入……………	8月	55
全米チャンピオンBYU社交ダンスチームを 招いて行なわれた日米大学間交流……………	8月	56
支部長に召され(平野英雄)……………	9月	57
菊地良彦長老、2年振りに里帰り……………	10月	54
ボクが大きくなったら……………	10月	64
3つのメダルを獲得したビーター・ビドマー選手……………	11月	54
新しくなる「聖徒の道」……………	11月	55
聖餐会に219人出席 ボーイスカウト 愛知連盟大会(キャンポリー)……………	11月	56
感動を呼んだミュージカル「家族って何だろう」 長崎地方部諫早支部……………	11月	57
月刊「ひまわり」の発刊と 編集者前田勇兄弟の信仰(牧野功)……………	11月	60
'85ミス・アメリカに選ばれた シャーリーン・ウエルズ姉妹……………	12月	54
一般市民との交流を深めたオープンハウス……………	12月	55
オープンハウスに注いだ情熱……………	12月	56
ユニークな伝道集 「チャンポントーキング!」……………	12月	58
東北の開拓者・堀江恵助兄弟(73歳)逝去……………	12月	59

## ☆私の証

両親に対する働きかけ(柳原陽子)……………	1月	159
高度150メートルでのささやき(日光南英雄)……………	1月	161
初等協会の責任を通して得たもの(三樹世津子)……………	1月	163
学内伝道を通して(田中浩行)……………	1月	165
茨城県「少年大使」に選ばれて(神崎芳美)……………	2月	58
私の聖句勉強法(岡本 亮)……………	2月	61
真の改宗を目指して(山田和人)……………	2月	63
「僕からの一番すばらしい贈り物」(山田和子)……………	2月	64
「飲ちゃんの全日本仮装大賞」に出場して得た証 (池田和政)……………	3月	62
忘れられない4つの出来事(黒田仲治)……………	3月	70
1年半の伝道から私の学んだこと(江口由利子)……………	4月	57
あのとき あのこと(赤井英喜)……………	4月	59
「門を叩け、さらば開かる」(大野てふ子)……………	4月	62
30年ぶりの再会と惜別(首 芳乃)……………	4月	64
6年目の改宗(山田 正)……………	4月	66
「すぐここを去れ!」(中西恭子)……………	5月	59
全盲の夫とともに(伊藤 好)……………	5月	61
プロテスタント教会からの改宗(佐々木正博)……………	5月	63
ポエムコーナー「陽だまりの中で」(飛田耕市)……………	5月	67
初等協会「明るい少女」のクラスで決めた 目標を達成して(坂いづみ)……………	6月	59
モルモン経のセミナーで培った証(野崎正子)……………	6月	60
父と私のこと(掛川千波)……………	6月	61
モルモン2世からの手紙(仙台伝道部宣教師)……………	6月	66

「フォーエヴァー」コンサートの経験 (浪平啓三)……………	7月	149
シェイブ・アップ伝道(飯田紀代美)……………	7月	150
ポエムコーナー「大切なあなたへ」(岡元美穂子)……………	7月	153
「とても強い光と何か言ひしれない 喜びを感じました」(中西祐子)……………	7月	154
「モルモンもキリスト教です」(落越米子)……………	7月	156
「あなたが18歳になったときに」(志摩一誠)……………	7月	159
BYU留学中に体験した社交ダンスチーム との思い出(辻 恵子)……………	8月	57
私のバプテスマ(山口こず恵)……………	8月	58
ALOHAの愛(久保正明)……………	8月	60
伝道に出る決心をした日(早勢弘一)……………	8月	61
「あらゆる人々は己が国語と己が言葉にて完全 なる福音を聞かん」(春田誠治, 平田浩二)……………	8月	63
試しを祝福に(穂坂真理子)……………	8月	64
支部長に召され(平野英雄)……………	9月	57
「汝らもしわが命令を守らば地に栄ゆべし」 (高瀬大地)……………	9月	59
宣教師から受けた恩義に報いる責任 (伊藤ひとみ)……………	9月	61
「私はお姉ちゃんが好きです」(磯村美津子)……………	9月	63
神様は人を遣わされる(中村信行)……………	9月	66
熊本北支教会堂の建設に寄せて(一の宮 清)……………	9月	67
私の疑問に解答を与えてくれた「聖徒の道」 (宮内敏雄)……………	10月	58
「先祖についての教会の教えに驚き、一度に 興味を持ちました」(宮内有り子)……………	10月	59
「それは幸福になるためです」(芥野正己)……………	10月	63
「がんこな父が心を開いた日」(荒 利治)……………	10月	66
暗い毎日からの救い(寺下一八)……………	11月	58
「この教会にめぐり会えて幸せです」 (遠藤和枝)……………	11月	62
人生の充足感を求めて(光井康磨)……………	11月	64
「お母さん、夢のように楽しかったね」 (光井さち)……………	11月	65
職場の仲間全員が万歳3唱で 送ってくれました(高橋裕子)……………	11月	66
日々の恵み—歯科医としての経験から (近藤玲子)……………	12月	60
末日聖徒の家庭に見た真の幸福(木村真知子)……………	12月	61
宣教師への恩返し(竹沢り子)……………	12月	64
「ミス・マガジン」に選ばれて(斎藤由貴)……………	12月	66

## ☆職業と信仰シリーズ

絵ガガキの輸出が取り持った私の改宗 (広田大右)……………	4月	56
「私は人々に正しい原則を教え……」 (古川盛悦)……………	6月	63
手話通訳者として(永島美恵)……………	9月	64
教会堂の管理人となって(三浦康資)……………	10月	61

## ☆新教会堂の紹介

泉ワード部……………	1月表	3
------------	-----	---

枚方ワード部	2月	67
鉦路支部	2月表	3
井尻ワード部	3月	72
一宮ワード部	4月	68
函館支部	5月	68
白石ワード部	6月	65
帯広支部	7月	160
米子ワード部	8月	68
熊本北支部	9月	68
久留米支部	10月	68
福島ワード部	11月	68
加古川ワード部	12月	72

## ☆JMTCスナップ

第53, 54, 55期生	2月	66
第56, 57期生	4月	67
第58, 59期生	7月	147
第60期生	8月	67
第61, 62期生	10月	64
第63, 64期生	12月	63

## ☆読者のひろば・編集室から

「教会での子供たち」を読んで（堀井幸枝）……1月 167  
 渋谷ブックセンターからのお知らせ……5月66, 11月68,  
 1月168, 2月68, 3月72, 4月68, 5月68, 8月68, 12月67

# 完成した加古川ワード部 教会堂 — 種がまかれて10年

**兵** 庫県南部の瀬戸内海<sup>はりまなだ</sup>の播磨灘に面し、播磨平野を流れる加古川の河口の豊かな自然に囲まれた地域に発展した加古川市は、万葉集に出てくる「印南野」の集落で知られ、その歴史は古く播磨の穀倉地帯でもあり、江戸時代には宿場町として栄えました。現在では人口約21万人で播磨臨海工業地帯として鉄鋼をはじめとする近代工業が進出し、新産業文化都市として発展しています。

この加古川の地に初めて回復された福音がもたらされたのは、約10年前の1974年3月でした。姫路支部の付属支部としてスタートした初めの頃は、定まった建物がなく安息日ごとに勤労会館などを借りて集会を開いていました。やがてある民家の2間を借りることになりましたが、その建物にはトイレがなかったため、駄目で用を足しに行かなければなりませんでした。その年の暮れに曾谷眼科の2階をお借りすることができ、そこで約5年間、お世話になりました。そして独立支部となり、教会員も増えて成長してきました。

1980年3月に神戸ステキ部が組織されたときにワード部となりました。またその年に、菓子問屋の倉庫であった現在の土地が購入され

ました。

そして昨年建築が許可されました。主からのこの大きなプレゼントは言葉で言い表せない喜びでした。新しい教会堂は今年の5月11日に完成しました。土地が間口14メートル、奥行き41メートルという鰻の寝床のように細長い<sup>なが</sup>ため、新築なった教会堂は、スペースを生かす工夫がなされています。2階の礼拝堂兼多目的ホールに通じる廊下の部分が1階より出ていてひさし<sup>ひさし</sup>のようになっており、下のスペースに14、5台が駐車できます。

加古川ワード部での特徴を2、3ご紹介いたしますと、①ワード部となった記念に発行し始めた「ワード部便り」は毎月発行され、やがて満5歳を迎えようとしています。②ホームティーチングの達成率は過去3年間90パーセント台を持続してきました。③聖餐会の後30分間、ワード部聖歌隊がコーラスの練習をしています。現在ではレパートリーがかなり増え、「いつでもどこでも歌えるように」をモットーに練習に励んでいます。また初等協会の子供たちも毎月1回聖餐会で子供の歌の発表をしています。

多くの人がこのすばらしい教会堂に集って主に讚美を捧げ、その心に霊の糧をたくさんいただき、やがてはこの加古川の地がシオンのステキ部の礎<sup>いしずえ</sup>となるように日々頑張っています。

(加古川ワード部監督・都倉昭夫)

神戸ステーキ部加古川ワード部 1984年5月11日完成  
兵庫県加古川市加古川町本町108-5 TEL 0794-24-4258



都倉昭夫監督

敷地面積：607.38㎡  
建築面積：235.02㎡  
延床面積：418.54㎡





ひとりのみどりごが  
われわれのために生れた、  
ひとりの男の子が  
われわれに与えられた。  
まつりごとはその肩にあり、  
その名は、「靈妙なる識士、  
大能の神、とこしえの父、  
平和の君」ととなえられる。  
(イザヤ9:6)

